

# 藤原御花畑 『えん』

## —都市型ラインガルテンの提案—

### 藤原御花畑とは

江戸時代の松山城下町にあった現在の松山市駅周辺の一帯を指す。城下町の中心に近い市街地化されず草地や花畑として維持されてきた。人の休息や武士の療養のためにつくられた。現在の花園町の名の由来である。

### ラインガルテンとは

ラインガルテンとは都市郊外にある宿泊しながら野菜や果物の栽培を楽しむ小さな貸農園のことである。19世紀末にドイツで広まった。愛媛県には久万高原町にある。

### 設計主旨

本計画では、小さな貸農園と超短期型滞在LDK（コミュニティスペース）を設けた都市型ラインガルテン（仮称）を提案する。

1階に住宅、2・3階に受付、超短期型滞在LDK、カフェ（一般客OK）、室内農園を設けた。3階から屋上農園に出ることができ、すべての屋上を農園として連続させることで、人々の活動が立体的に広がるので、また、回遊式農園としているので、カフェに来た人でも実際に歩き回り、農園を鑑賞することができる。



「えん」は形態としての「円」であると同時に、人と人、人と自然を結びつける「縁」、活動が生まれる「園」を意味する。自然の魅力を伝えるとともに、交流を促進したり、人々を癒すことのできる場を提供したい。

### 建設予定地と課題

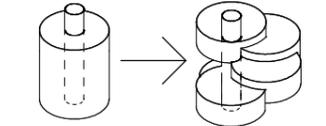


歴史的景観と都市が隣り合う角地とした。観光客やビジネスマン、学生が行き交う場所である。実際に敷地周辺を歩くと魅力的な環境でありながら、人が滞在するきっかけが乏しいことに違和感を覚えた。

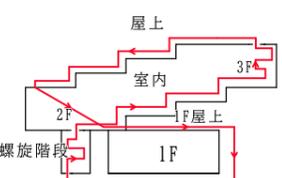
### 家族構成

父：35歳／農園管理  
母：33歳／カフェ運営  
娘：7歳／小学生

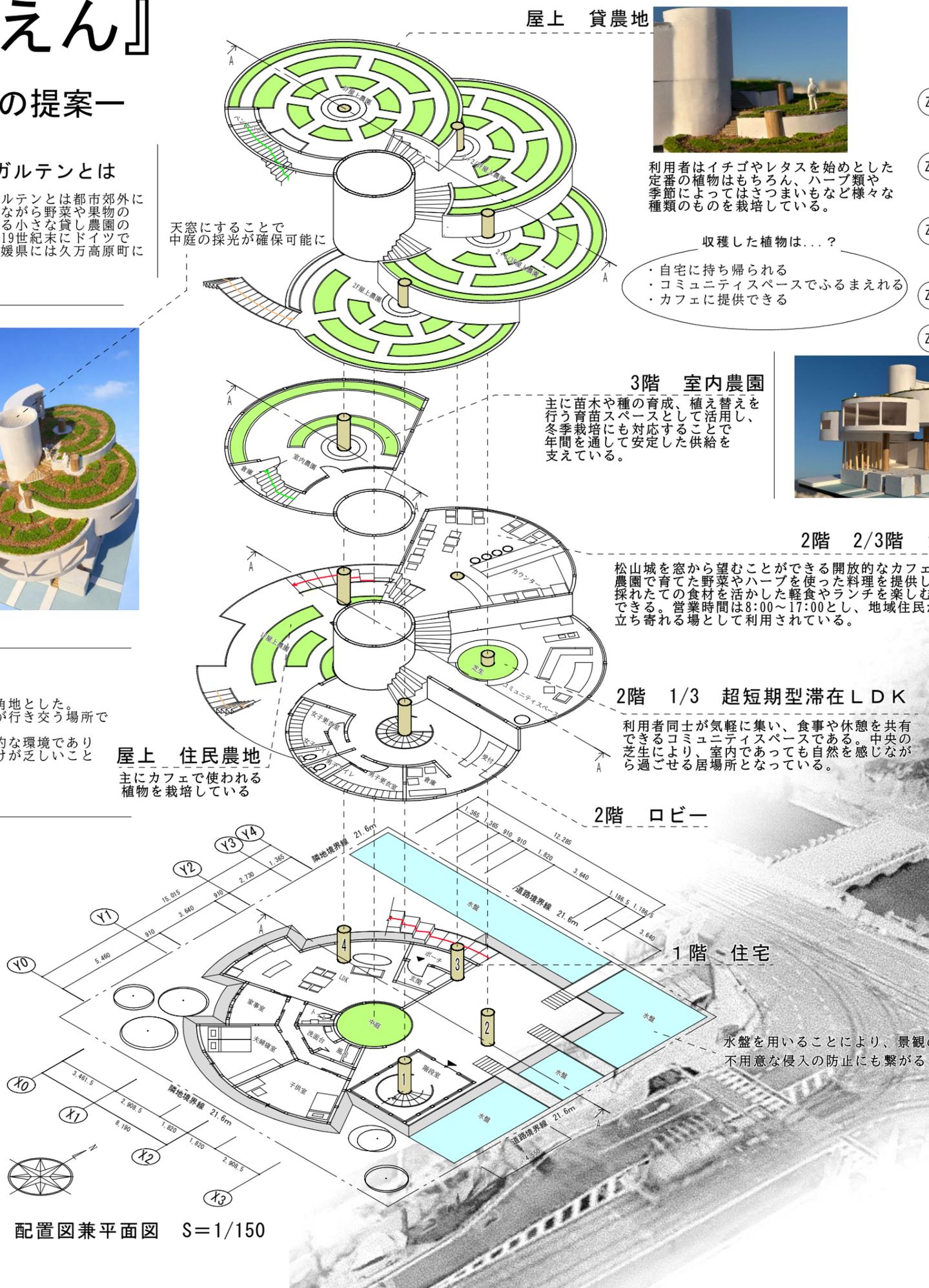
### ダイアグラム



建物の形状を扇形にすることにより、屋上空間を増やす



建物全体を立体的に回遊可能に



利用者はイチゴやレタスを始めた定番の植物はもちろん、ハーブ類や季節によってはきつまいもなど様々な種類のものを栽培している。

収穫した植物は...?

- ・自宅に持ち帰られる
- ・コミュニティスペースでふるまわれる
- ・カフェに提供できる

### 3階 室内農園

主に苗木や種の育成、植え替えを行う育苗スペースとして活用し、冬季栽培にも対応することで年間を通して安定した供給を支えている。



### 2階 2/3階 カフェ

松山城を窓から望むことができる開放的なカフェである。農園で育てた野菜やハーブを使った料理を提供しており、採れたての食材を活かした軽食やランチを楽しむことができる。営業時間は8:00~17:00とし、地域住民が日常的に立ち寄れる場として利用されている。

### 2階 1/3 超短期型滞在LDK

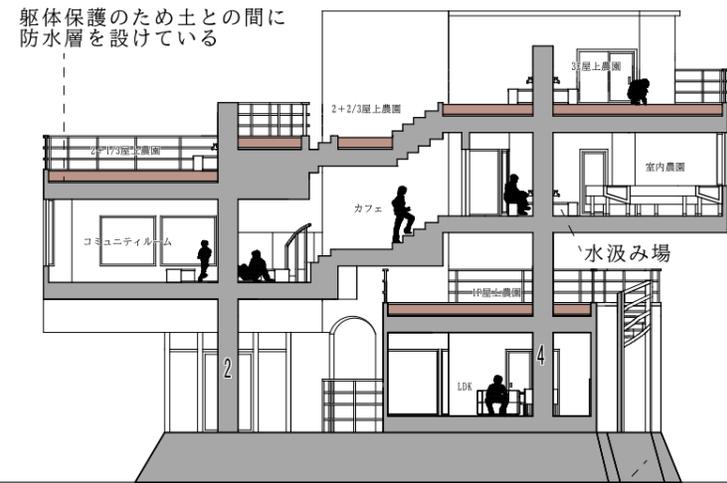
利用者同士が気軽に集い、食事や休憩を共有できるコミュニティスペースである。中央の芝生により、室内であっても自然を感じながら過ごせる居場所となっている。

### 2階 ロビー

### 1階 住宅

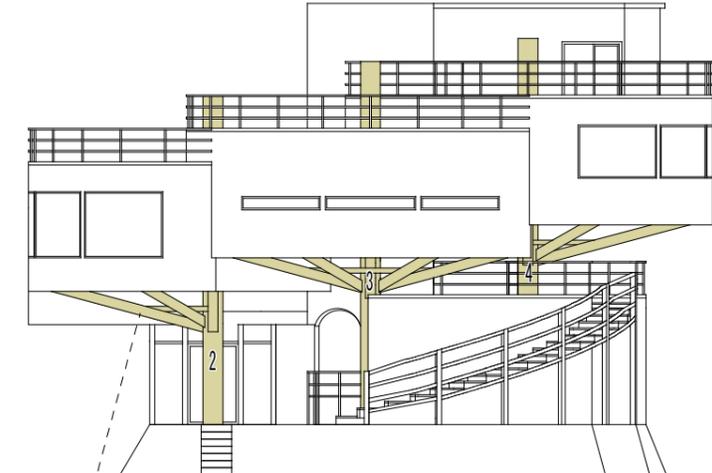
水盤を用いることにより、景観の調和、不用意な侵入の防止にも繋がる

配置図兼平面図 S=1/150



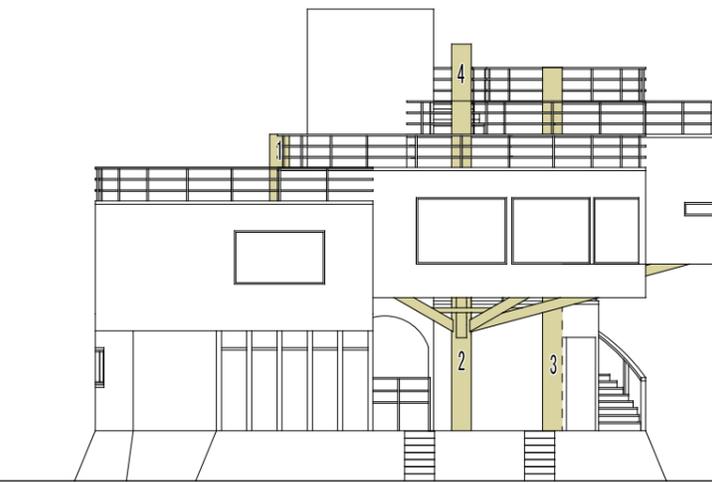
A-A断面図 S=1/150

石垣を用いることにより、景観の調和、高さを出しプライバシーの確保が可能



北側立面図 S=1/150

方杖構造により上の躯体を支える



東側立面図 S=1/150

# 灯の家

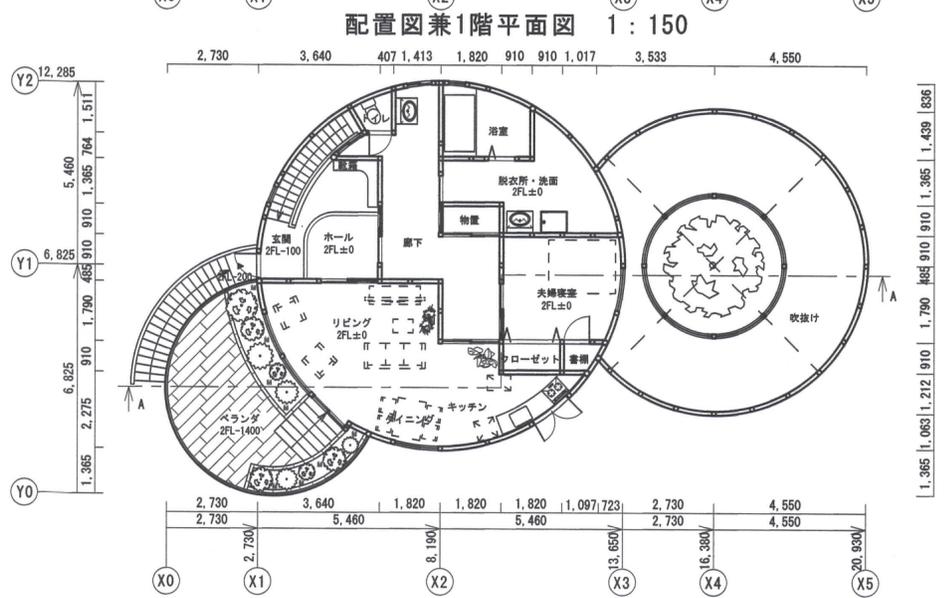
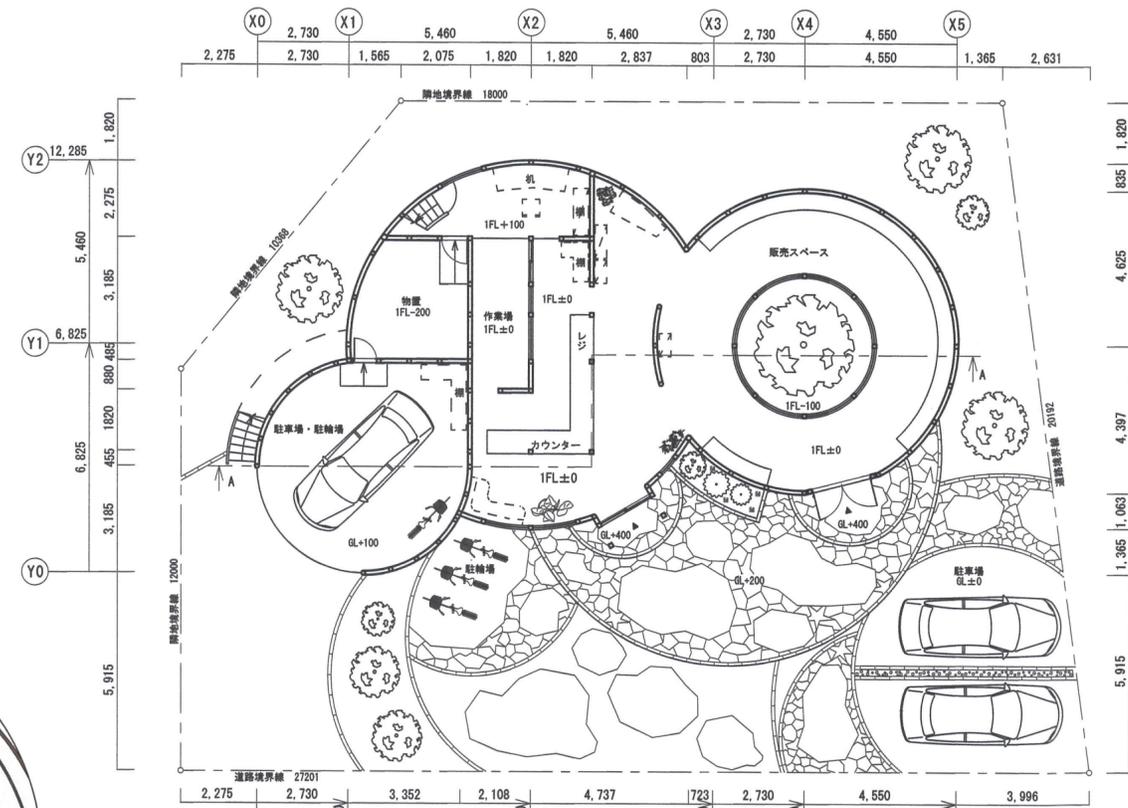
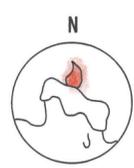
～柑橘香るキャンドル～

## 設計主旨

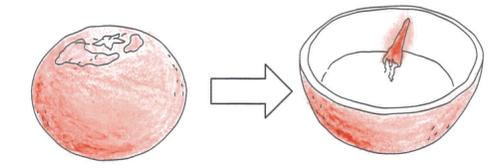
愛媛県の特産品であるみかんは、地域の誇りである一方、近年では、カメムシの大量発生や、温暖化による「浮皮」等の品質低下などの問題により、廃棄されるみかんが増え、2024年の収穫量は全国3位に転落しました。そこで私は、廃棄されるみかんや、そのほか柑橘類を再利用するため、廃棄される柑橘の皮や香りを活用したキャンドルを製作・販売する専門店を考え設計しました。キャンドルにした理由は2つあり、1つ目はキャンドルの「火」が持つ温かみと、木造住宅の「木」が持つ安らぎを融合させ、訪れた人がリラックスできる空間にしたかったからです。また、キャンドルが持つ火のぬくもりと、柑橘の香りは、南海トラフが来た際など、不安に包まれている方たちの精神的なサポートができるのではないかと考えています。2つ目は、SDGsに貢献することができると思ったからです。使用済みのろうは再利用することができるので、使用後のろうの回収を行うことで、ごみの発生を抑えることができます。

面積表	
敷地面積	491.88㎡
建築面積	113.05㎡
1階床面積	113.05㎡
2階床面積	91.61㎡
延べ床面積	204.66㎡
建ぺい率	22.98%
容積率	41.61%

家族構成	
夫	24歳
妻	24歳



## 廃棄されるみかん



## みかんのキャンドル

- ・廃棄のみかんを使ったキャンドル
- ・みかんを半分に切り、中身をくり抜く。その後、みかんの形を維持しながら、ろうを流し入れる。

## キャンドル

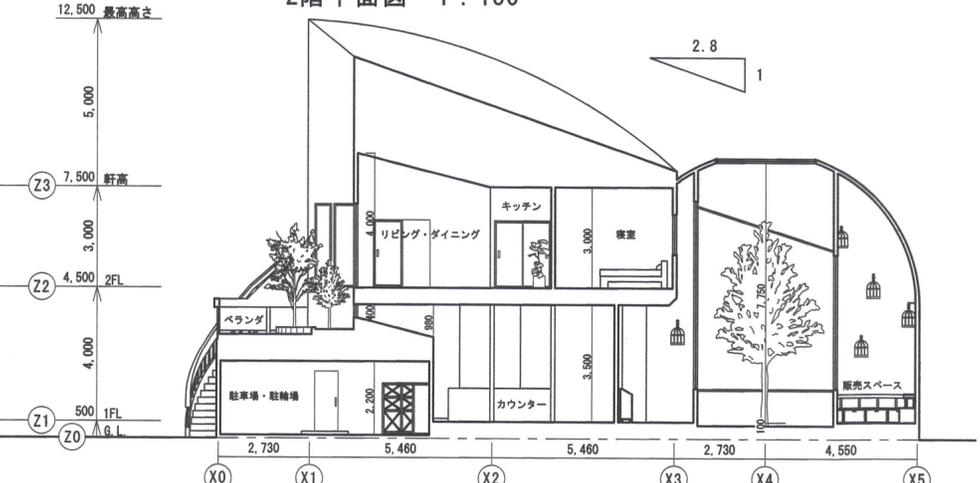
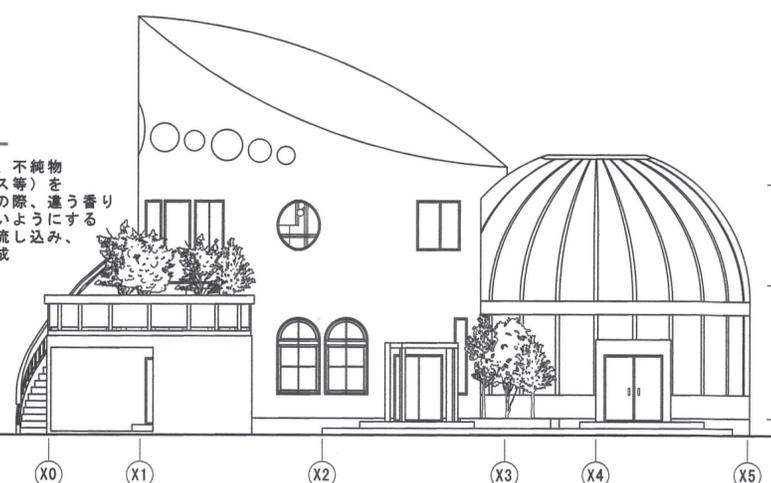
- ・ろうを溶かし、不純物（芯の燃えカス等）を取り除く。この際、違う香り同士を混ぜないようにする
- ・容器にろうを流し込み、冷ましたら完成

## シーリングワックス

- ・手紙などの封印や装飾に高級感を演出する
- ・シーリングワックスを作った後、裏側に両面テープを貼ればシールのように扱うことができる

## アロマワックス

- ・ドライフラワーやみかんなどの果実でデコレーションした「火」を灯さないキャンドル
- ・芳香剤として香りを楽しめる
- ・小さなお子様がいても火を使わないので安心



南立面図 1:150

A-A断面図 1:150

# 「penguin」

～ペンギンと過ごす一夜～

## ▼ 設計主旨

みなさんは、「これが本当に好き！」と言えるものはありますか？私にとってそれは「ペンギン」です。丸い体やよちよち歩く姿がとてもかわいくて、もっと近くでふれ合ってみたく思うようになりました。しかし、日本にはペンギンとふれ合える場所があまり多くありません。そこで私は、ペンギン好きの人がペンギンと一緒に過ごせる、日本で初めての宿をつくりたいと考えました。ただ泊まるだけでなく、ペンギンと同じ空間でゆっくりと時間を楽しめる特別な宿を目指しました。

この宿のデザインで参考にしたのは、ペンギンが暮らす地域でも見られる自然現象「オーロラ」です。オーロラはゆらゆらとした曲線がとてもきれいで、その形を建物にも取り入れることで、印象に残るデザインになると考えました。また、オーロラをモチーフにすることで、ペンギンがいる場所の雰囲気も感じられる建物にしたいと思いました。

この計画は、ペンギンのかわいさと自然の美しさをいっしょに楽しめる、今までにない新しいタイプの宿をつくることを目的としています。



## ▼ 宿について

- 観る  
リビングや寝室、中庭など  
様々な方向から観る。
- 楽しむ  
触れ合いなどを通して楽しむ。
- 感じる  
自然の美しさや  
ペンギンのかわいさを感じる。



### ▼ 家族構成

父親 (42) / 散歩  
母親 (42) / 料理  
長男 (17) / 高校生

## ▼ 水族館との違い

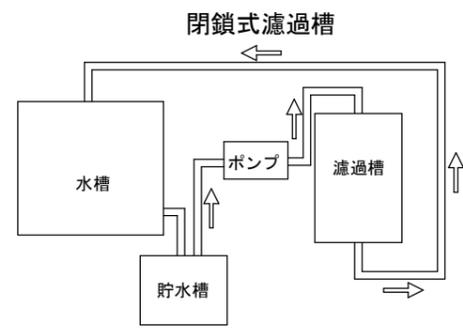
- ・人の目を気にすることなく楽しめる。
- ・ここでしかできない体験ができる。
- ・自分の好きなタイミングで楽しめる。
- ・水族館では見られない姿が見れる。  
— 寝ている姿など

## ▼ 雨水の利用

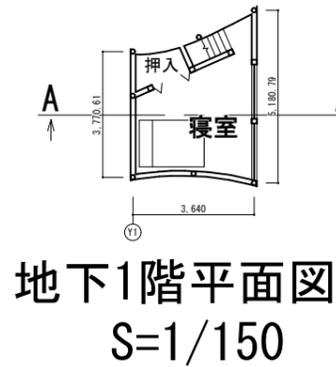
中庭に流れてきた雨水を濾過し、展示室の水として利用する。



## ▼ 濾過槽地

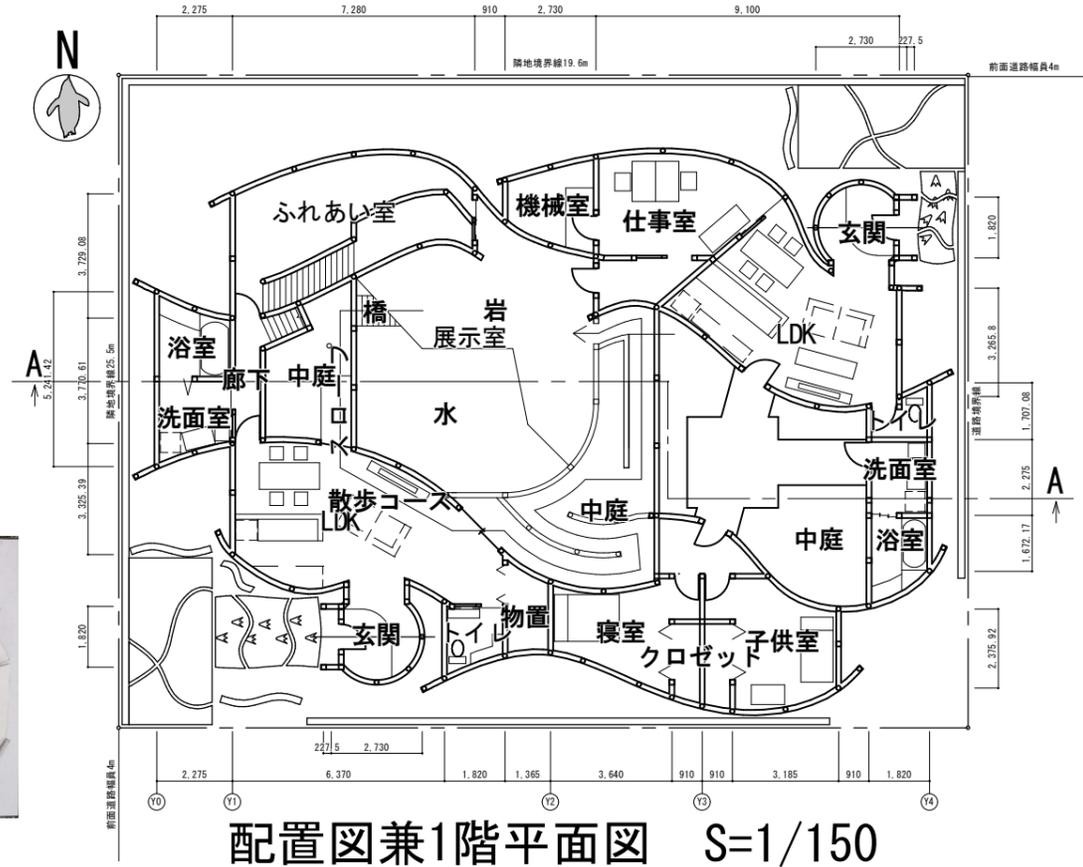


## ▼ 平面図



水族館で主に使われるろ過装置は「開放式循環濾過」「閉鎖式濾過槽」の二種類がある。この建物では「閉鎖式濾過槽」を使用する。

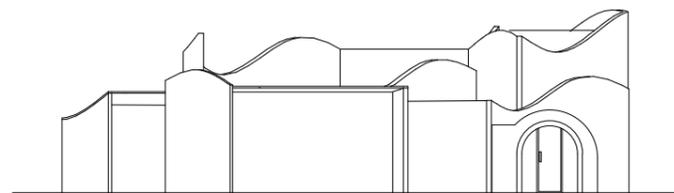
- ▼「閉鎖式濾過槽」とは？  
貯水槽、濾過槽、飼育水槽を一セットとした濾過装置。
- <特徴>
- ・開放式と比べ濾過速度が速い。
  - ・開放式と比べスペースを取らない。
  - ・設置場所が固定されない。



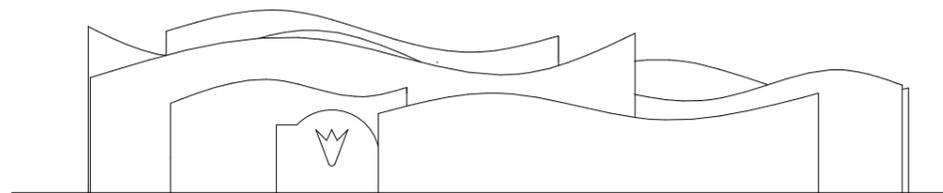
## ▼ 完成イメージ図



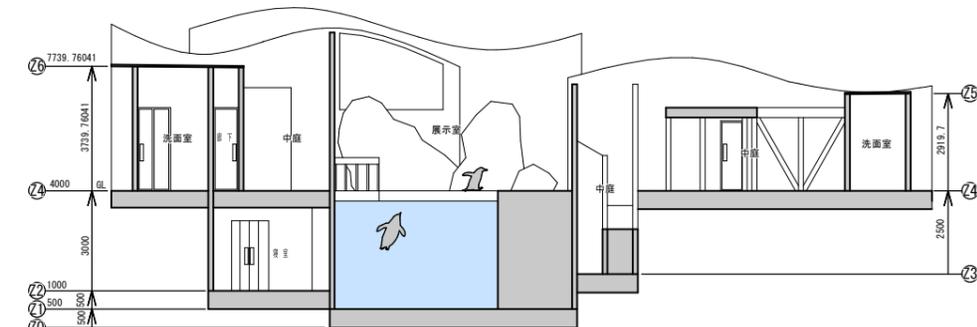
## ▼ 平面図・断面図



東立面図 S=1/150



南立面図 S=1/150



A-A断面図 S=1/150

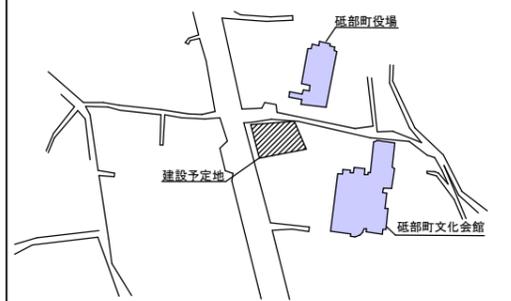
# 蒼白茶庵

## ～砥部の未来について～

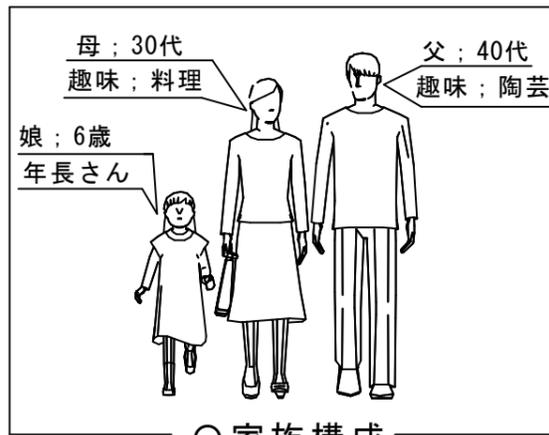
### ○設計主旨

私は地元である砥部町が大好きだ。砥部町は決して大きな町ではないが、山や川に囲まれた自然の豊かさ、そこに暮らす人々の温かさにあふれている。町を歩けば四季の移ろいを身近に感じることができ、すれ違う人同士が自然に挨拶を交わす、そんな穏やかな空気が流れている。このような環境で育ったからこそ、私は砥部町に強い愛着と誇りを持っている。そんな砥部町には数えきれないほどの魅力がある。豊かな自然、地元で採れる新鮮な食材、そして長い歴史の中で育まれてきた文化や伝統。その中でも、私が最も誇りに思っているものが「砥部焼」である。砥部焼は、白地に藍色の丈夫で温かみのある磁器として知られ、日常使いに適した焼き物として長く人々の暮らしを支えてきた。しかし、砥部焼は愛媛県内ではよく知られているものの、県外に出ると「知らない」「見たことがない」と言われることも多く、その魅力が十分に伝わっていないのが現状である。私はこの現状を変えたいと考え、地元の食材を生かしたカフェをつくり、陶芸と食という二つの要素を組み合わせることで、砥部町の魅力を発信したいと思うようになった。そこで、砥部焼と砥部町の食を同時に発信できる店舗付き住宅を設計した。

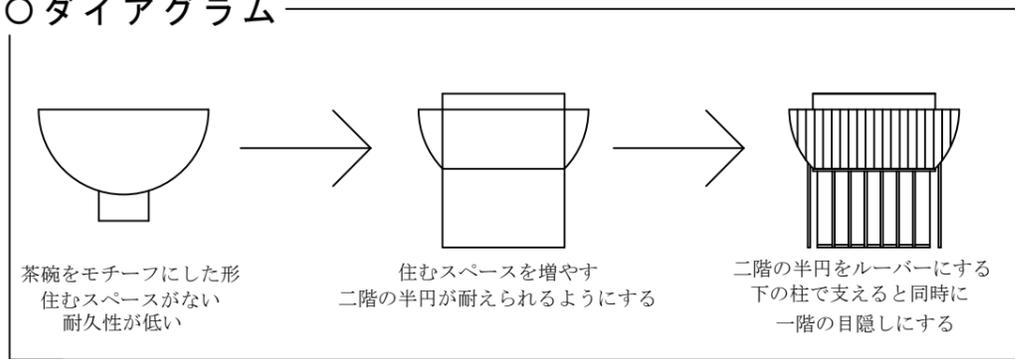
### ○建設予定地



### ○家族構成

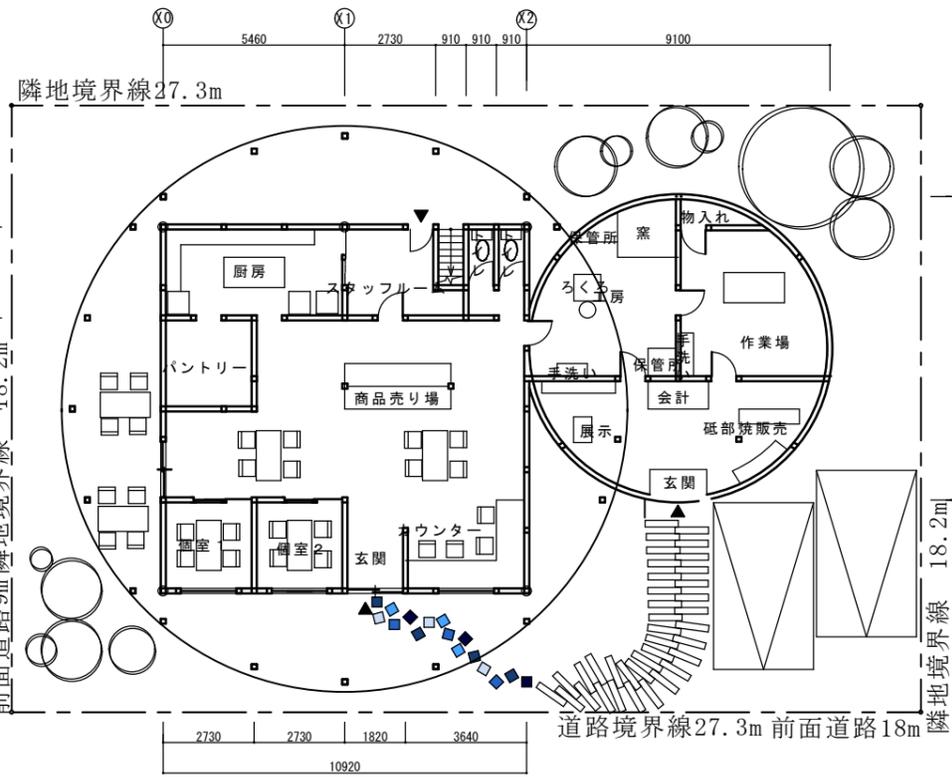


### ○ダイアグラム

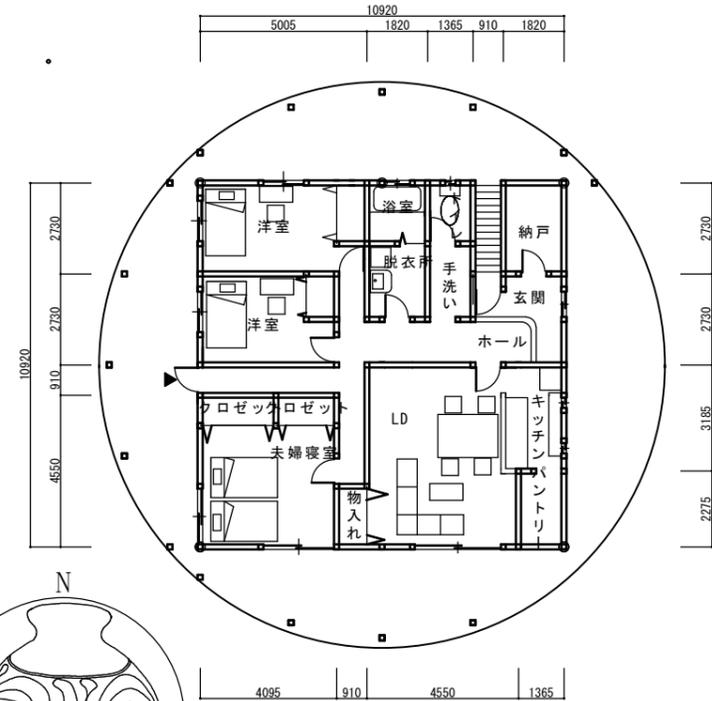


### ○砥部焼について

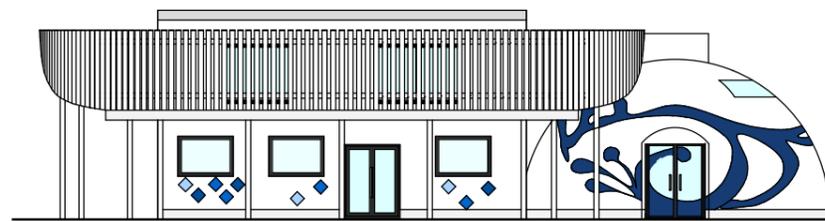
砥部焼は、愛媛県砥部町で作られている伝統的な陶磁器です。白地に藍色で描かれた力強い絵付けが特徴です。器は厚手で上部に作られており、割れにくく日常使いに適しています。砥部焼の歴史は江戸時代後期に始まり、どんどん発展していきました。砥部焼の様子は職人によって一つ一つ手書きで書かれています。そして砥部焼は、夫婦喧嘩で投げつけても割れないという話から、別名「喧嘩器」とも呼ばれています。4月に砥部焼祭り、11月ごろに秋の砥部焼祭りが開催されます。



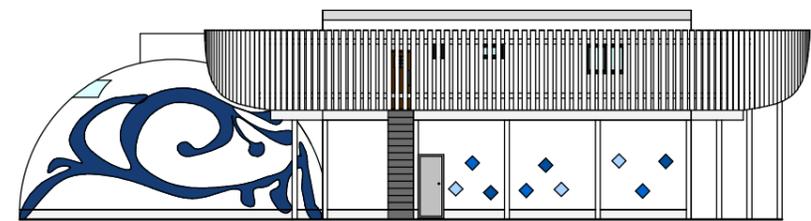
配置図兼一階平面図 1/100



二階平面図 1/100



南側立面図 1/100



北側立面図 1/100

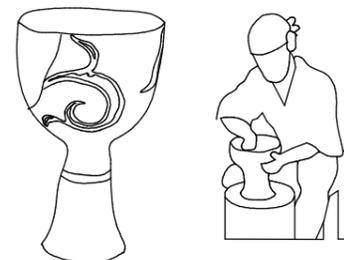


南側イメージ図



ルーバーのおかげでベランダに出ることができ、ただ壁をつけるよりも光が入りやすくなっている

陶芸は、形成、素焼き、絵付けなどいろんな作業をするため生活スペースからすぐ行けるように動線を整えた。そして、砥部焼は直射日光などが当たると他のものと乾燥時間が変わるため工房は北側に配置した。絵付けにもすぐ行けるように隣に作業場を設置した。

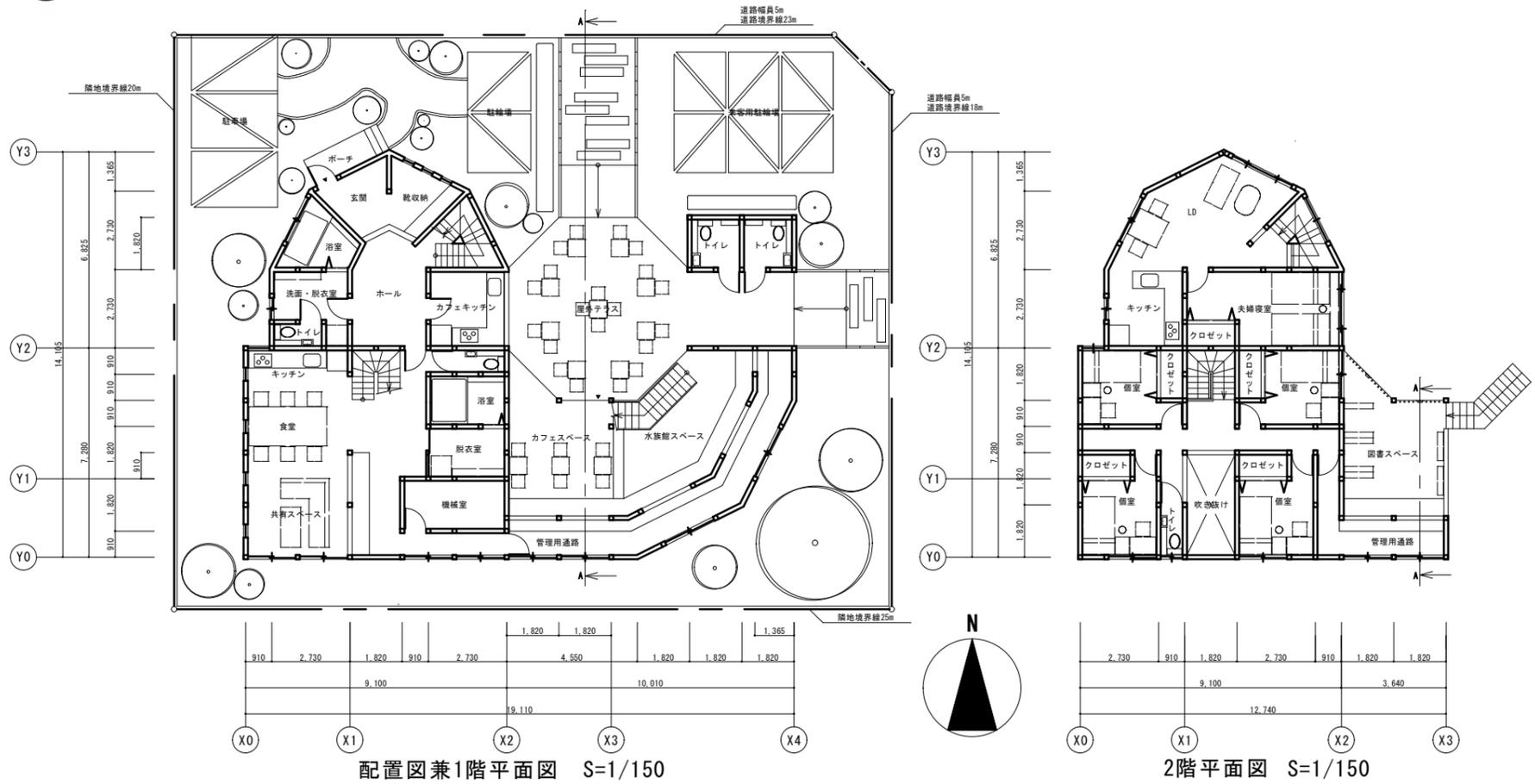




# 長浜カフェ 碧苑

## ～長高水族館の拡大計画～

### 平面図・配置図



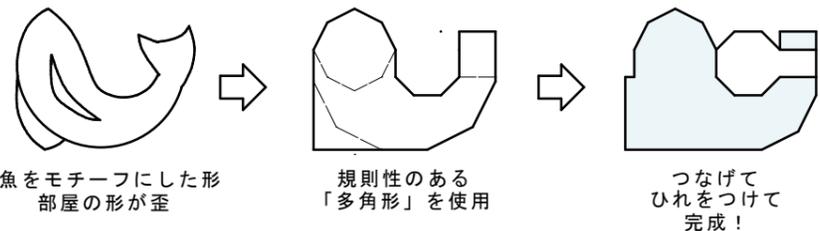
### 設計主旨

その昔、愛媛県に四国初の水族館が誕生した。海を学び、川を学び、人々の暮らしと結びつきを深め続けたのが、現在の「長高水族館」である。学校で、日本で唯一水族館部がある。県外からも数多くの入学希望者が集まっている。しかし、長浜高校には学校が管理する学生寮がなく、住まいが確保するには下宿やアパート探しが必要となっている。人と人・人と魚がつながる場、そして学びと実践の学生寮としての役割を担う建築を提案する。

### 長浜高校との関係

生徒が主体となって運営・管理する「長高水族館」。学校の近くの伊予灘や肱川で採集した魚介類など、約150種・2,000点以上の生き物を飼育・展示している。現在完全予約制となっているこの水族館を数多くの人に楽しんでもらうことを目的とした、学校の管理下にある寮である。説明・接客・運営といった社会性・コミュニケーション能力も育成し、地域活性化へ貢献する建築である。

### ダイアグラム



### 敷地概要

- 長浜商店街の十字路
- 長浜高校から  
約400m 徒歩6分
- 長浜大橋から  
約350m 徒歩4分



### 住民構成

- 夫婦 40歳  
長浜高校の卒業生。学びを生かす場所として学生寮をつくった。
- 長浜高校 生徒4人  
水族館部の繁殖班・イベント班・研究班  
デザイン班から1人ずつが寮生活をしている。

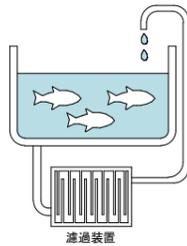
### 閉鎖式循環濾過システム

貯水槽、濾過槽、飼育水槽を1セットとした濾過システム

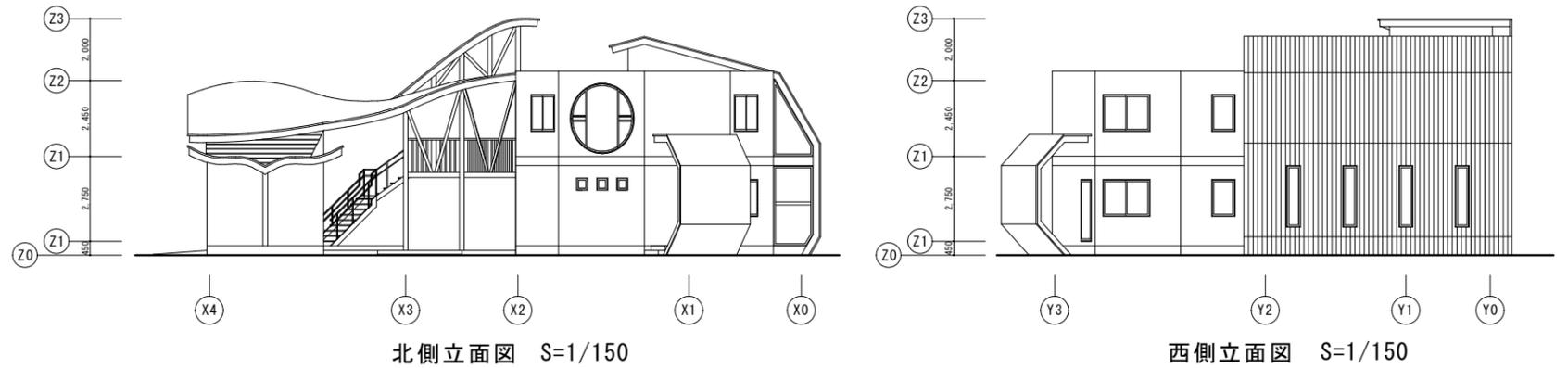
貯水槽→ポンプ→濾過槽  
→展示水槽→貯水槽

#### 特徴

- 濾過した水が空気に触れない
- 濾過が偏る可能性有り
- 濾過速度が速い
- 省スペース
- 高低差が必要ない



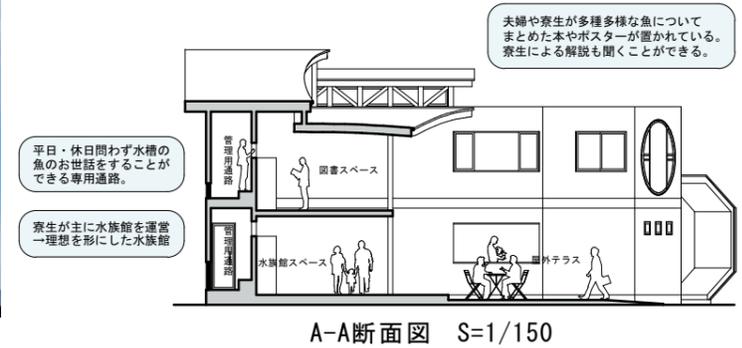
### 立面図



### 建物イメージ写真



### 断面図



# ● 食べログハウス ●

## ～地域に憩いの場となるお菓子屋を～

### ● 設計主旨

私はお菓子が好きです。お菓子は、疲れた心をそっと癒し、日常に小さな幸せを与えてくれます。そんな“安らぎ”を感じられる場所は、地域にとって必要不可欠な存在だと思います。それが、この食べログハウスです。食べログハウスは、お菓子を「買う・作る・食べる」ことができる、地域密着型のお店です。子どもからシニアまで、世代を超えて人が集い、笑顔が生まれる場所でもあります。ログハウスという日本では珍しい造りが、店内に入った瞬間から温もりと安心感を与えてくれます。木の香りに包まれながらお菓子を味わう時間は、忙しい日常を忘れさせてくれる特別なひとときです。食べログハウスは、お菓子を通して人と人をつなぎ、地域の心の拠り所となる場所なのです。

### ● 家族構成



### ● お菓子屋について

**買う** 店に入っすぐ、手作りのお菓子がたくさん並んでいる。

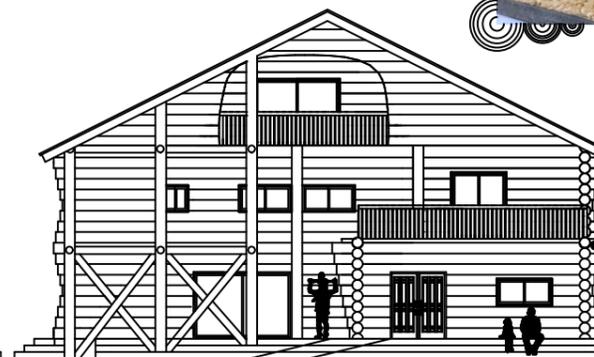
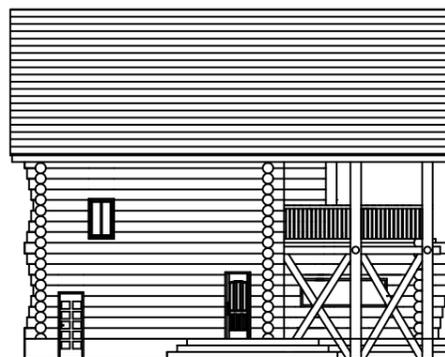
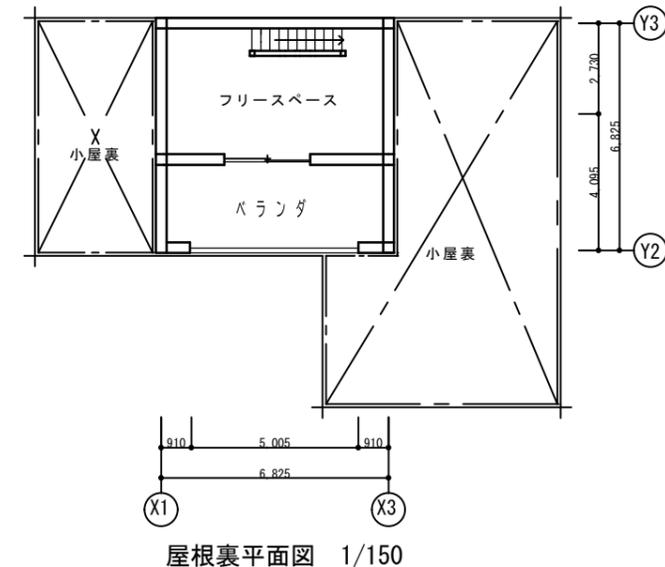
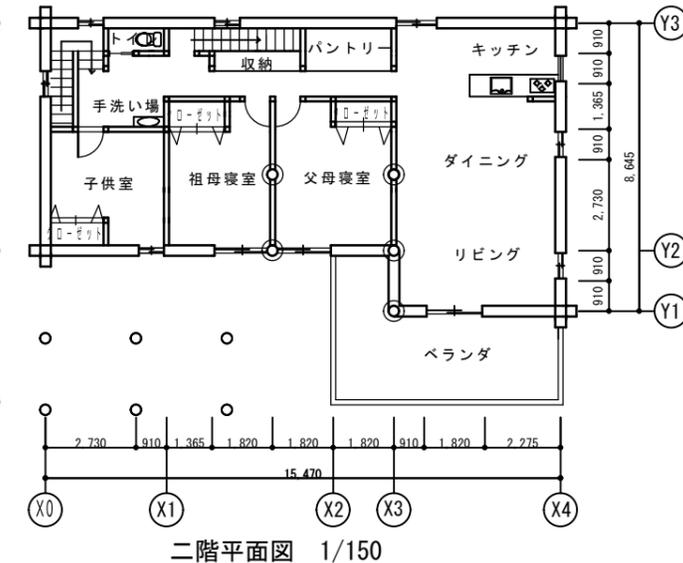
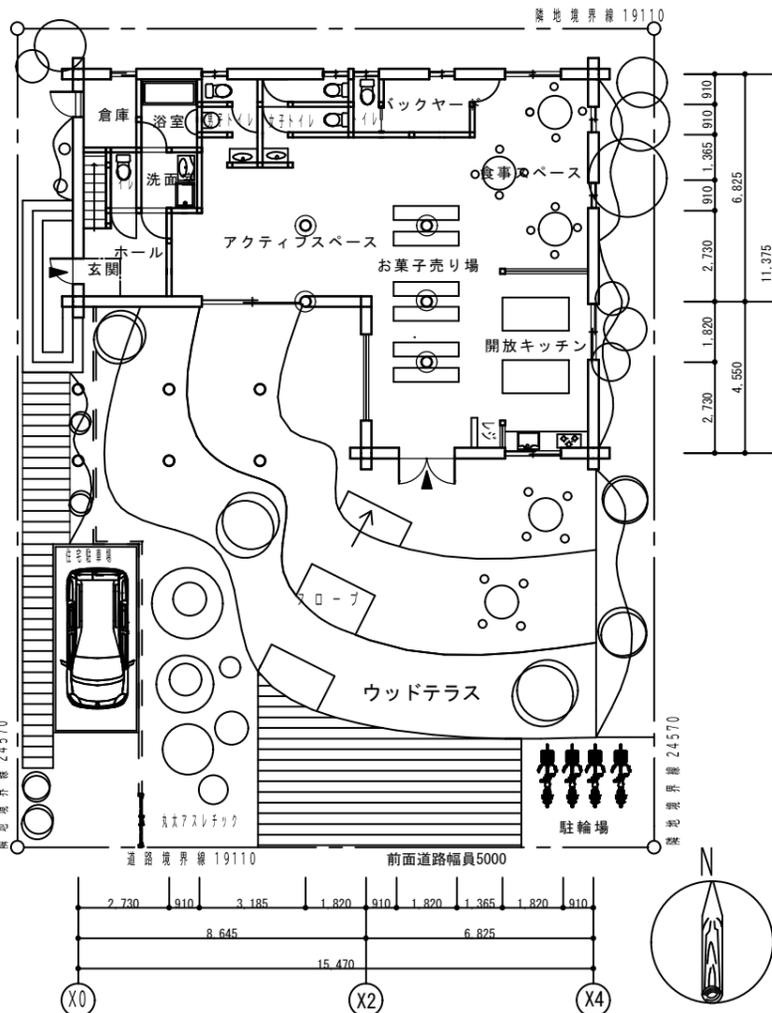
**作る** 開放感のあるオープンキッチンでお菓子作り体験ができる。自分の作ったお菓子が新商品になるかも？

**食べる** お店で買ったものや、自分で作ったものを店舗内の飲食スペースや屋外のテラスで食べることができる。

↓  
お菓子をその場で注文することも可能！作りたてのお菓子は絶品です。日替わりでのメニュー変更もあり、ラインナップも豊富です。右上のホームページにも少し記載しています。

### ● 魅力のウッドテラス

曲線で構成された三段式のウッドテラス。階段とスロープを取り入れ、視線と動線を確保し、植栽の高さを奥行きに生み出しています。



ようこそ「食べログハウス」へ  
～心を満たす手作りスイーツの店～

おすすめスイーツ  
Our sweets

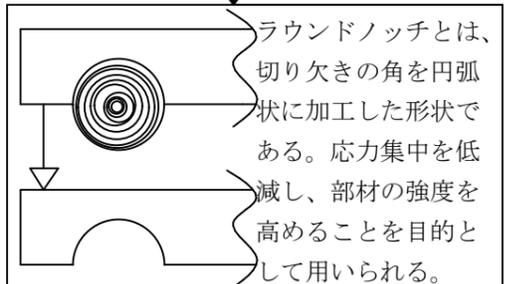
ふんわりシフォンケーキ 昔ながらのあんみつ 季節のフルーツタルト

営業時間・アクセス  
営業時間 10:00～18:00  
定休日 木曜日  
電話番号 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

食べログ評価  
★★★★★ 星4.8!  
大人気日替わりメニュー！  
みたらし団子・黒糖まんじゅう など



交差部はラウンドノッチを採用！





# こもれびのいえ

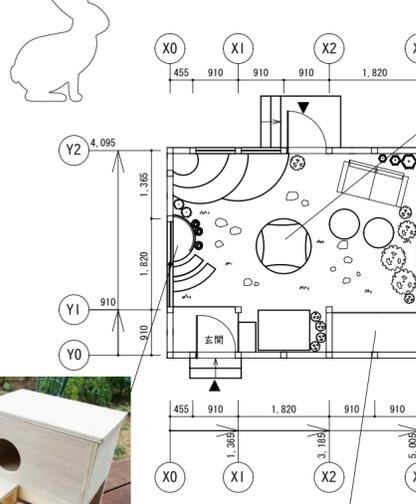
～癒しに包まれた自然のカフェ～



面積表

敷地面積	400㎡	1階床面積	138.07㎡	建蔽率	34.52%	延べ床面積	217.88㎡
建築面積	138.07㎡	2階床面積	79.81㎡	容積率	54.47%		

ウサギ部屋 1/100



遊具のイメージ



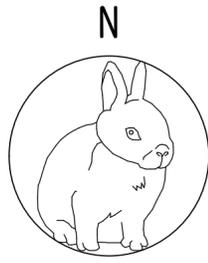
この建物にはマイペースなウサギがいます。愛らしい外見でウサギに癒されることが出来ます。



ウサギの遊具イメージ

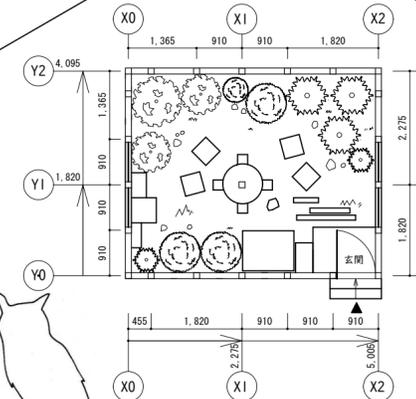


ウサギ小屋

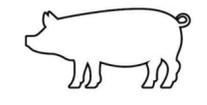
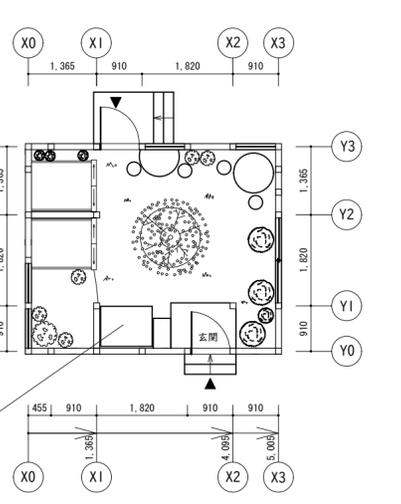


フクロウ部屋のイメージ

フクロウ部屋 1/100



子豚部屋 1/100



この建物には元気いっぱいの子豚がいます。元気に走り回る可愛らしい子豚に癒されることが出来ます。



子豚、ウサギ、フクロウの家にはカフェが楽しめる自販機があります。



子豚カフェのイメージ



この建物にはぬいぐるみのような可愛さのフクロウがいます。大きな目と可愛いフォルムで癒されることが出来ます。

## 設計主旨

今回設計した店舗付き住宅は、住宅を中心に中庭の通路で小動物たちの家をつなぐことで、暮らしと癒しが自然に溶け合う空間を作り出しました。それぞれ三つの小屋を訪れるまで中庭を歩いていく楽しさや、ハムスターだけでなく、ウサギ、フクロウ、子豚それぞれの可愛い個性に出会える構成は、お客さんに小さな冒険のような体験を与えることができます。草木に囲まれた敷地と裏庭で元気に遊ぶウサギや子豚の姿は、普段の生活では味わえない穏やかなひと時を楽しむことが出来ます。命の温もりや季節の変化を感じさせ、人と動物、家と自然がゆるやかにつながることで、日常から少し離れた心安らぐ場所である小動物カフェに癒されてみませんか。



中庭

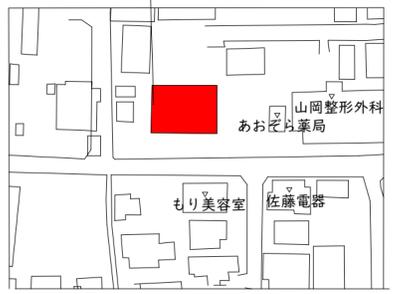


店舗付き住宅 正面

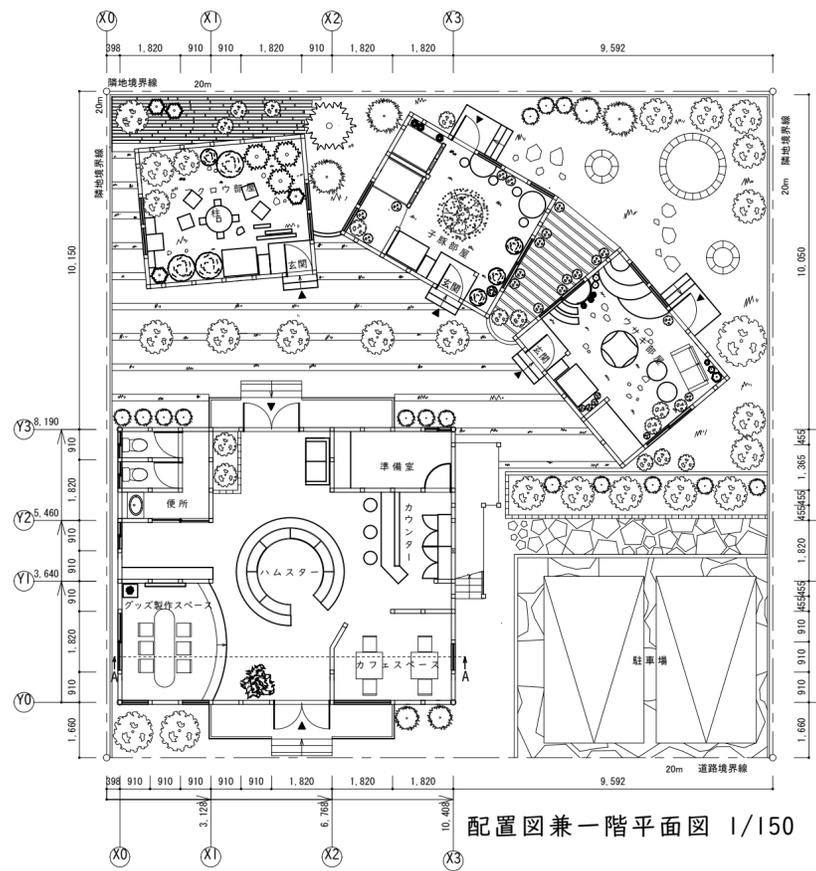


裏庭

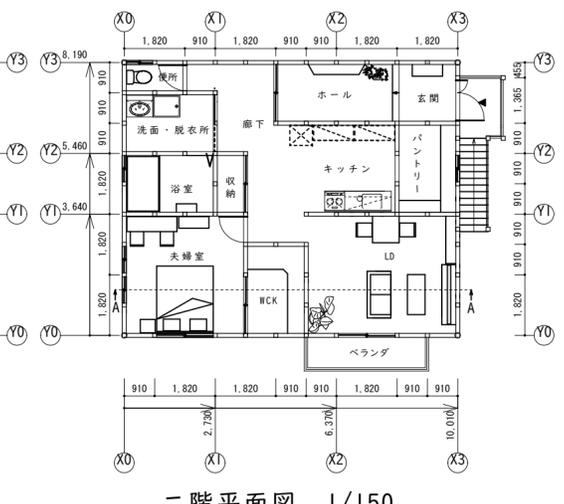
建築予定地  
※松山市西長戸町周辺



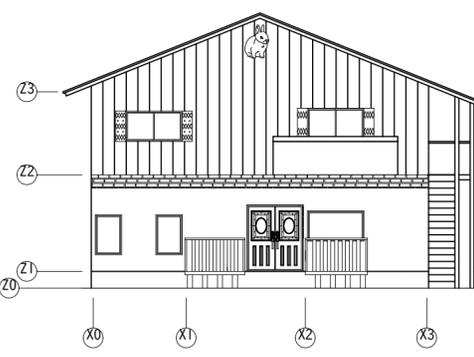
見取り図



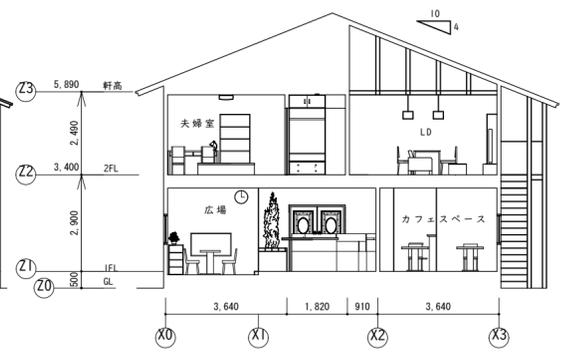
配置図兼一階平面図 1/150



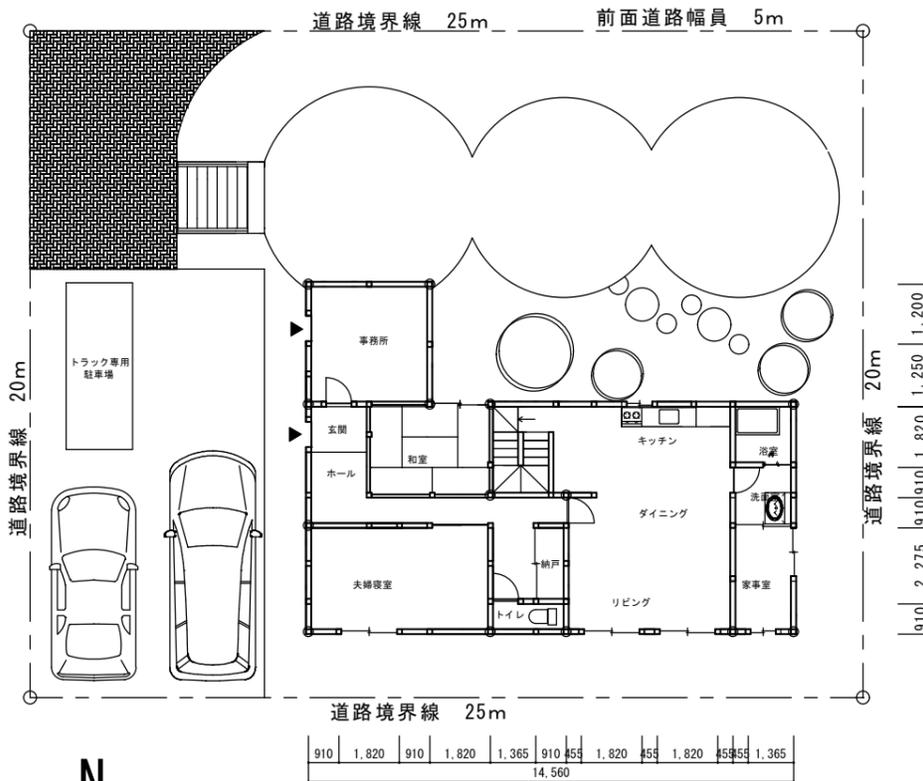
二階平面図 1/150



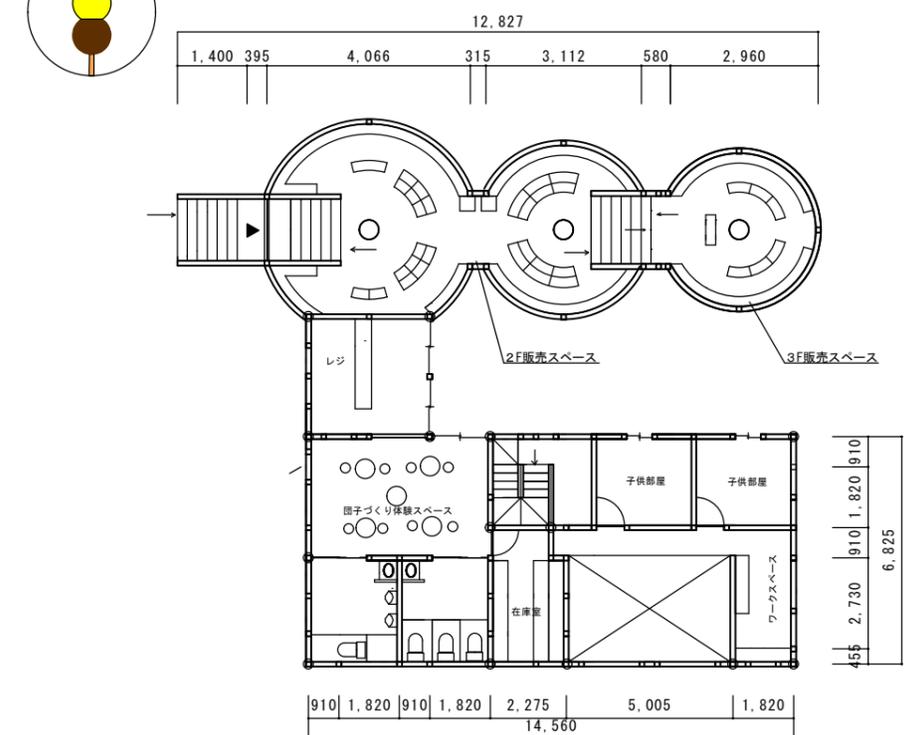
南立面図 1/150



A-A断面図 1/150



配置図兼1階平面図 1/150

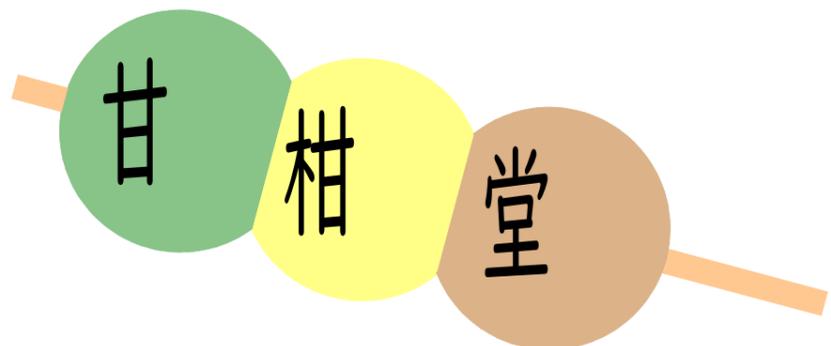


2階・3階平面図 1/150

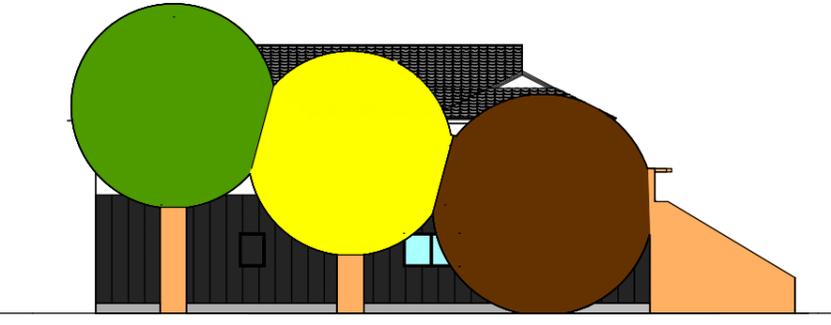


外観

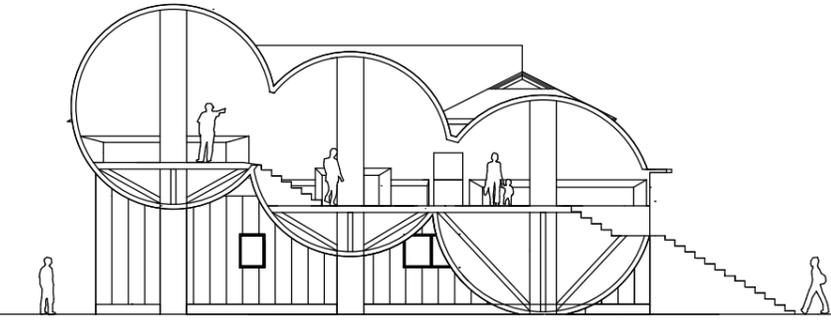
特徴的な団子の外観がSNSでの発信により多くの方が訪れ、道後にさらなる活気があふれていく。



西立面図 1/150



北立面図 1/150



店舗断面図 1/150



団子の庭

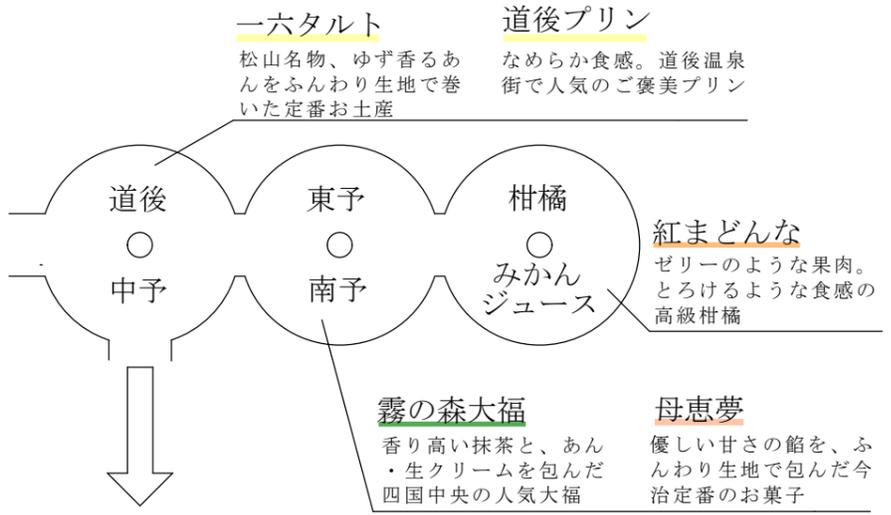
住民と観光客が自然と交流できる、暖かく、開かれた庭。旅の疲れを癒してみませんか？

～愛媛の感動をここに～

設計主旨

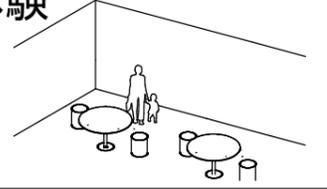
愛媛県において、観光産業は重要な柱となっている。近年では外国人観光客が増加し、地域の魅力をより多くの人々に届ける場として道後商店街の「お土産屋」の存在は一層重要な役割を担っている。愛媛を代表する観光地である道後温泉・道後商店街の一角に、新たなシンボルとしての土産店「甘柑堂」を提案する。従来の土産店の枠を超え、愛媛の甘味文化と柑橘文化を体験として発信する空間を目指した。道後商店街を抜けた先に突如現れるのは、巨大な坊ちゃん団子をモチーフにした象徴的な建築。訪れた人々はその内部に入り込むことで、まるで坊ちゃん団子の世界に迷い込んだかのような体験を得る。内部には愛媛の多彩な甘味、柑橘をテーマとした展示・販売・テさらに建物下部の広場は、観光客と地元住民が自然と交流できる開かれた場所として計画した。イベントやマルシェ、ワークショップを通して世代や国籍を越えた出会いを生み、地域に「暖かい風景」をつくる公共性の高い空間として機能する。「甘柑堂」は、単なる土産店ではなく、「愛媛の文化・景観・人をつなぐ」新しい道後のシンボルとなることを目指す。ここを訪れた人々が、愛媛の感動を持ち帰り、再び帰ってきたくなるような場所…

販売ゾーン



坊ちゃん団子づくり体験

坊ちゃん団子をつくる体験は家族とも楽しめ、新鮮な旅の思い出と団子を提供します。



家族構成

父	40歳	趣味	スイーツ
母	39歳		読書
長男	18歳		サッカー
次男	16歳		バスケット

面積

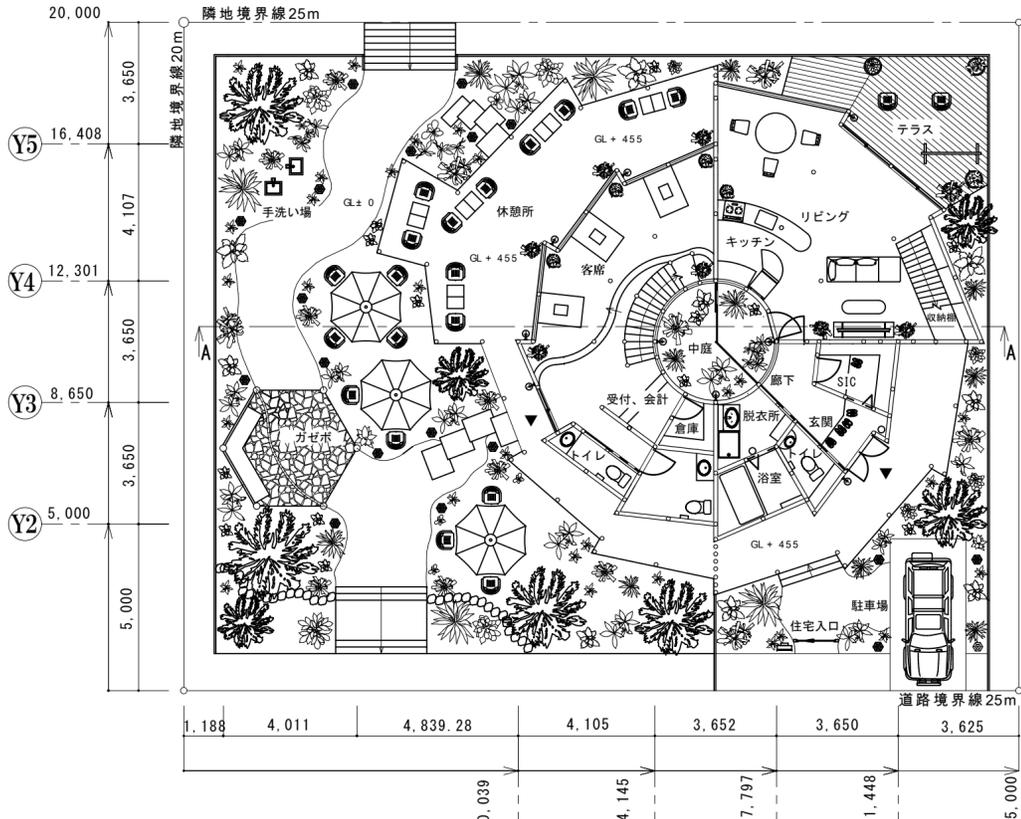
敷地面積	500㎡
建築面積	388.1㎡
1階床面積	252.4㎡
2・3階床面積	341.8㎡
延べ床面積	594.2㎡
建蔽率	77.6%
容積率	118.8%

地図



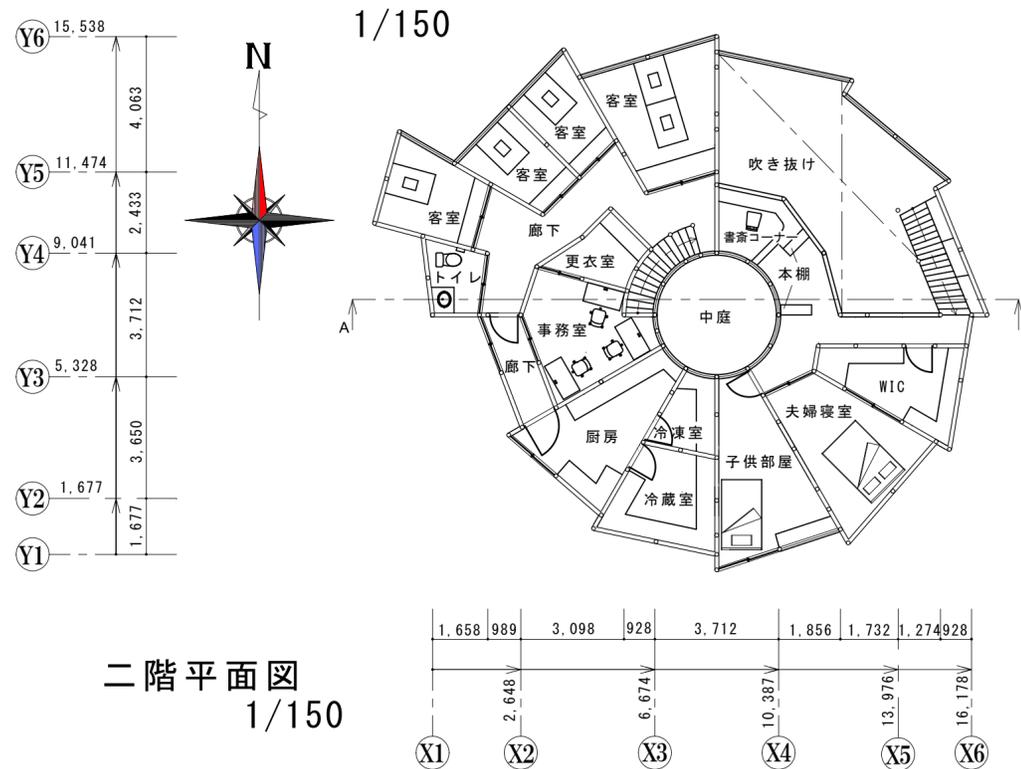
# 潮風 oyster オイスター

## 店舗内容 牡蠣小屋



配置図兼一階平面図

1/150



二階平面図

1/150

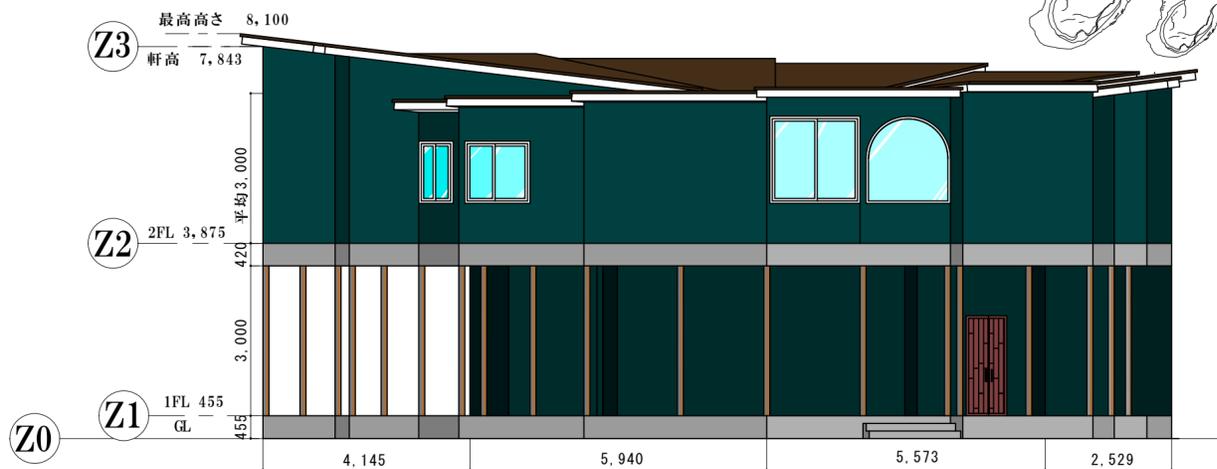
## 設計主旨

この建物は、牡蠣小屋にちなんで貝類のような見た目になっており、愛媛県で有名な海水浴場である、ふたみシーサイド公園の北側に位置し、他県から観光で訪れた方や、地元の方が、来て良かったと思える建物をコンセプトに設計しました。

一階、二階を店舗部分と住宅部分で半分に区切り店舗部分の庭では手洗い場や休憩所として活用し訪れた方々が南国の植物と海を眺めながら海水浴で疲れた体を一時的に休めることができます。



A-A断面図 1/80



南立面図 1/100



## 家族構成

人物	年齢
夫	40歳
妻	約40歳
子供	17歳

## 面積表

敷地面積	500㎡
建築面積	200.96㎡
一階床面積	113.04㎡
二階床面積	200.96㎡
延べ床面積	314㎡
建ぺい率	40.19%
容積率	62.80%

## 見取り図



にちにちか

# 日々花

365日の彩り



## 設計主旨

今治と言えば皆さんは何を思い浮かべますか？大半の方は今治タオルを思い浮かべるかと思いますが、あまり知られていませんが大島には、よしうみバラ公園などの隠れ観光スポットがあります。そこで私は、よしうみバラ公園に焦点を置いて、公園を訪れ、体験した事を形として残すことの出来るフラワーアート専門店を提案しました。大島を目的地として訪れる人は少ないですが、経由地として大島を通過する人は多くいます。そこで、大島に愛媛で有名なお花を加工できるフラワーアート専門店を作ることで、観光名所として有名にしようと考えました。このフラワーアート専門店をきっかけに、大島の発展と花の美しさをたくさんの人に知ってもらいたいです。素敵な花を思い出として残せるお店「日々花」にぜひ来てみませんか？

## 建設予定地

設計予定地は愛媛県今治市吉海町に位置する瀬戸内海が近く、自然に触れのびのびと過ごせる事が特徴です。



## 商品ラインナップ

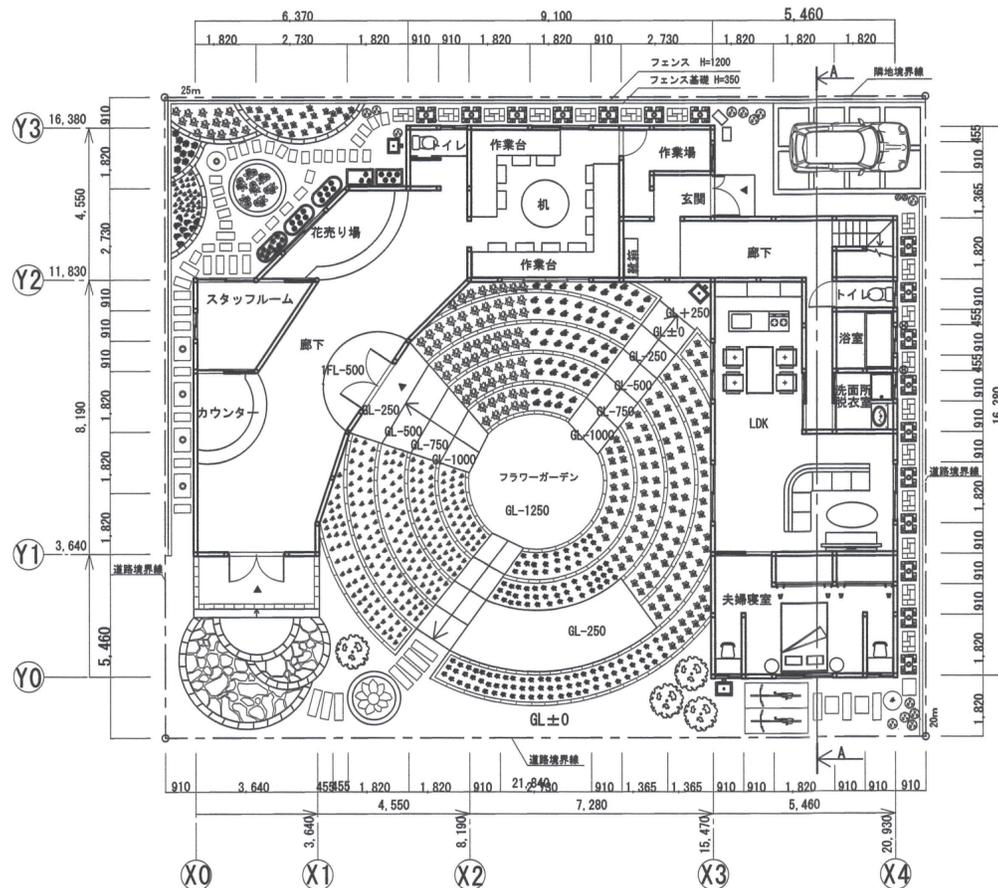


咲き誇る瞬間の輝きをアートとして永遠に閉じ込めることができます。フラワーアートは日常の喧騒を忘れさせるような、穏やかで気品のあふれる空間を演出します。

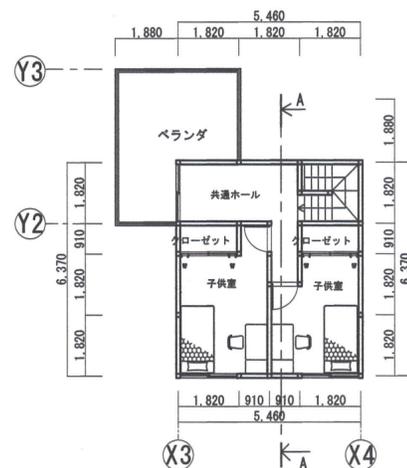
家族構成	職業
父	工芸家
母	フローリスト
息子	学生
娘	学生



外観パース

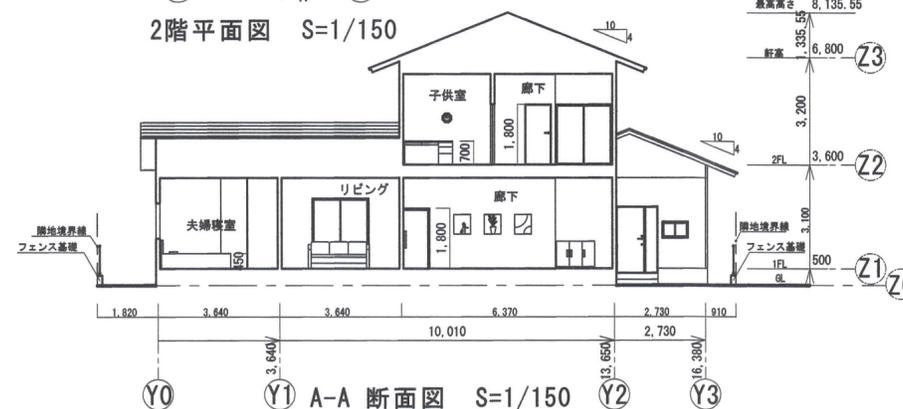


配置兼1階平面図 S=1/150



2階平面図 S=1/150

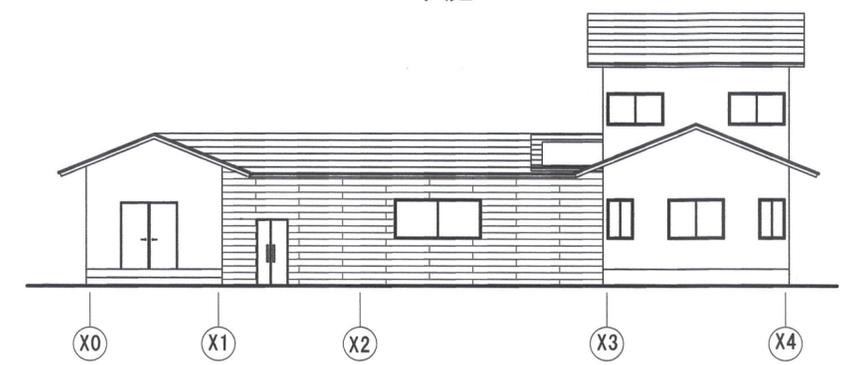
敷地面積	434.75㎡
1階床面積	182.32㎡
2階床面積	36.75㎡
延べ床面積	219.07㎡
建築面積	182.32㎡
建ぺい率	41.94%
容積率	50.39%



A-A 断面図 S=1/150

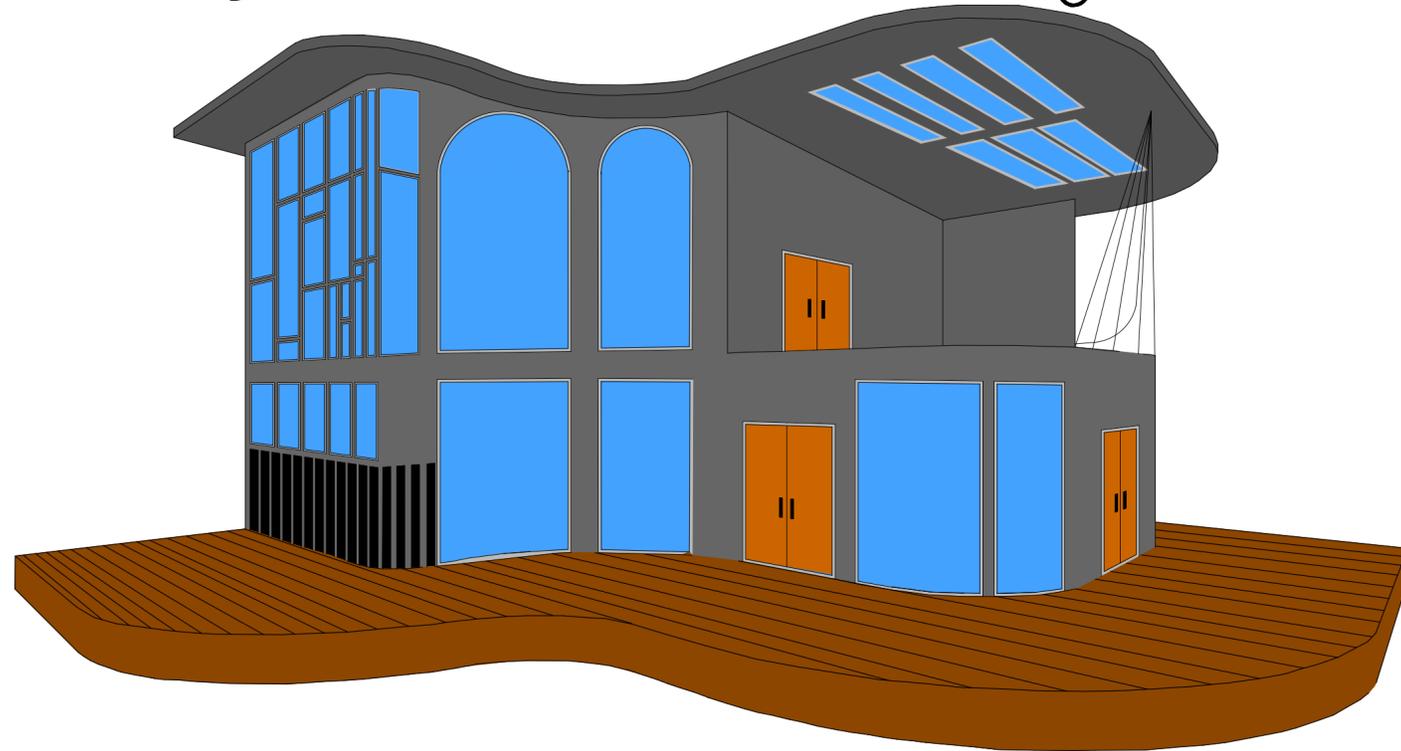


中庭



南立面図 S=1/150

# ♪ 森の隠れ家 ♪



## 設計主旨

森の中に置かれたこの建物は、森の自然と人の営みを内包する、二台のグランドピアノとして構想しました。同一の形をする二棟は隣接し、一方は演奏される店舗棟、もう一方は沈黙する住宅棟として構成されています。店舗棟では、ステージ上部の吹き抜けを通して音が立ち上がり、カフェ空間を経て、風や葉擦れの音と混ざり合いながら森へと開かれます。住宅棟は同じ外形を保ちながら、音を発しない「沈黙するピアノ」として、森の気配と余韻を生活の中に静かに沈殿させます。本計画は、森という即興的な音環境と建築を重ね合わせ、音が生まれ、熟成され、記憶として生まれ変わる建築を目指し、森と共に呼吸する空間を創出します。

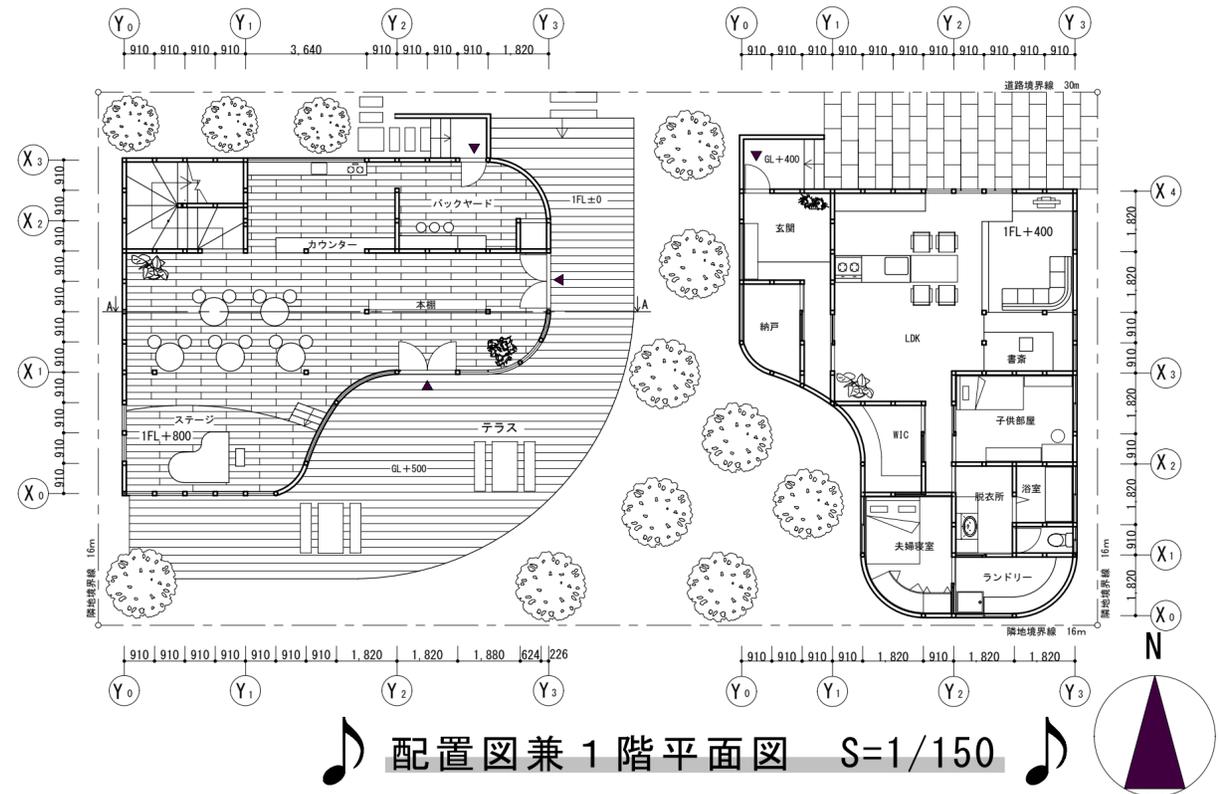
## 模型写真



## ♪ 見取り図 ♪

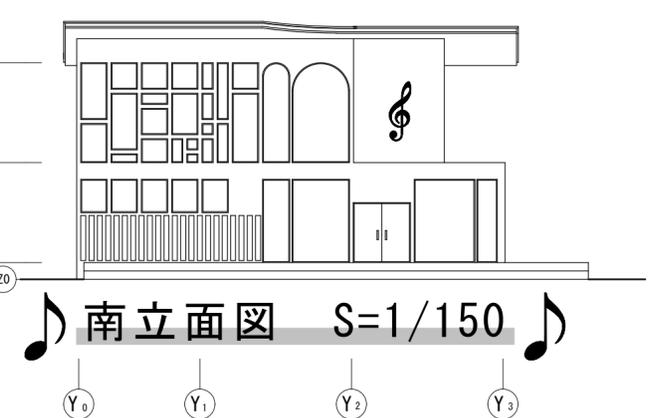
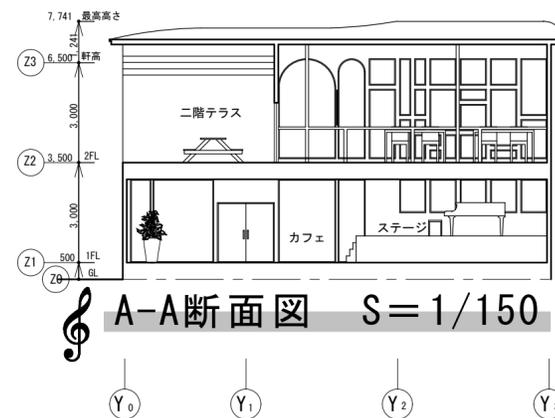
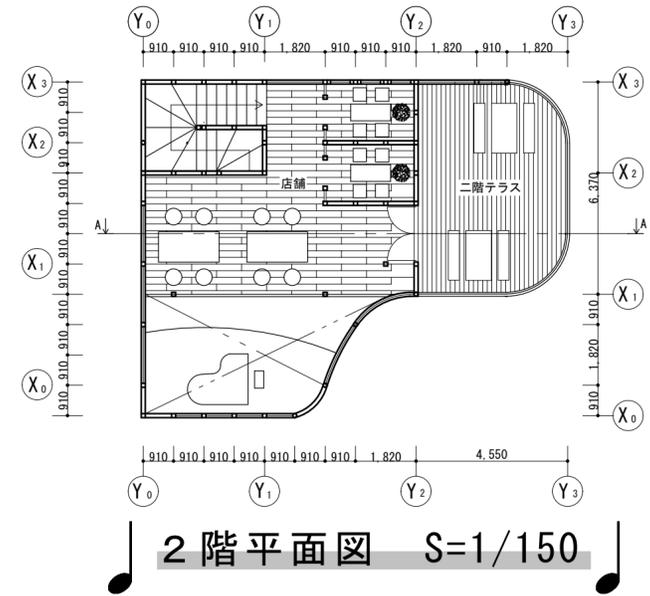


伊予市上三谷付近



面積表	
敷地面積	480㎡
建築面積	191.3㎡
1階床面積	191.3㎡
2階床面積	65.85㎡
延べ床面積	257.15㎡
建蔽率	39.85%
容積率	53.57%

家族構成		
母	35歳	カフェ店員
父	35歳	カフェ店員
子供	6歳	学生



# 分針書店

～時を感じ、本を読む～

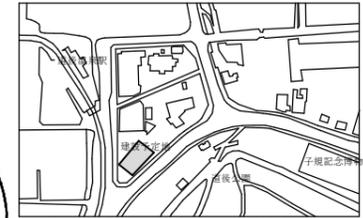
## 設計主旨

現代社会では、人々は常に時間に追われながら生活している。しかし、「時間そのもの」と静かに向き合える場所がほとんど存在しない。私は、時間を「計る」時計ショップと、時間を「蓄える」書店を融合させた店舗付き住宅を設計した。異なる時間の性質を持つ二つの用途を重ね合わせることで、時間をただ消費するのではなく、自らの時間を意識し、選び取るための建築空間をつくり出すことを目的とした。時計は「現在」を測り、日々のリズムを刻む装置である。一方、書店は本を通じてこれまで蓄積されてきた知識や物語と出会い、時間を越えた思考を深める場所である。この「流れる時間」と「積もる時間」という二つの対照的な性質に注目し、建築の中で時間との向き合い方を再認識できる空間の創出を目指した。この施設的设计は、「時間」という抽象的な概念を建築として可視化し、人が自分の時間と向き合うための新しい居場所をつくる試みである。

住宅部分は店舗と動線を分離し、静けさとプライバシーを確保した。一方で、吹き抜けや中間領域を通して街と柔らかにつながる計画とし、商いと暮らしが互いに干渉しすぎず、同時に緩やかにつながる関係性を築いている。また、構造や仕上げには経年変化を楽しめる木材を採用し、時間の経過が建築の表情として現れるよう配慮した。建物自体が「時を刻む存在」となることを意図している。

1階の店舗部分では、時計ショップと書店を用途別に整理しながらも、同一の空間に置くことで「時間の質の違い」を体験として感じられる構成とした。精密な時計の機構や修理作業の動きと、読書の静けさが共存することで、来訪者は時間を「選ぶ」「味わう」体験ができる場となる。

## 建設予定地

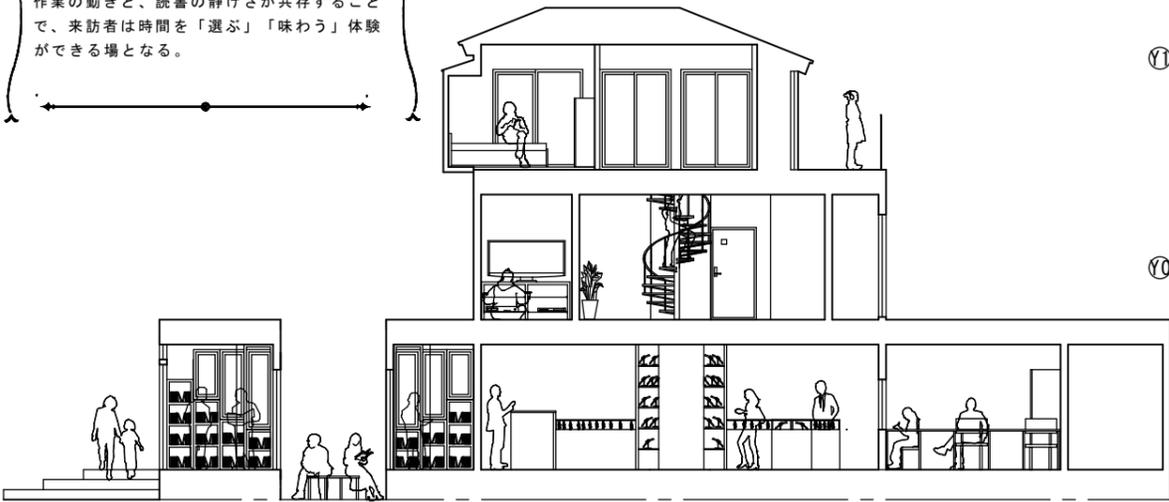


建設予定地は愛媛県松山市道後湯之町道後公園と道後温泉に囲まれ、観光客も多い松山のシンボルの地域です。道後温泉や子規記念博物館のように、愛媛の象徴となるような施設を目指しています。

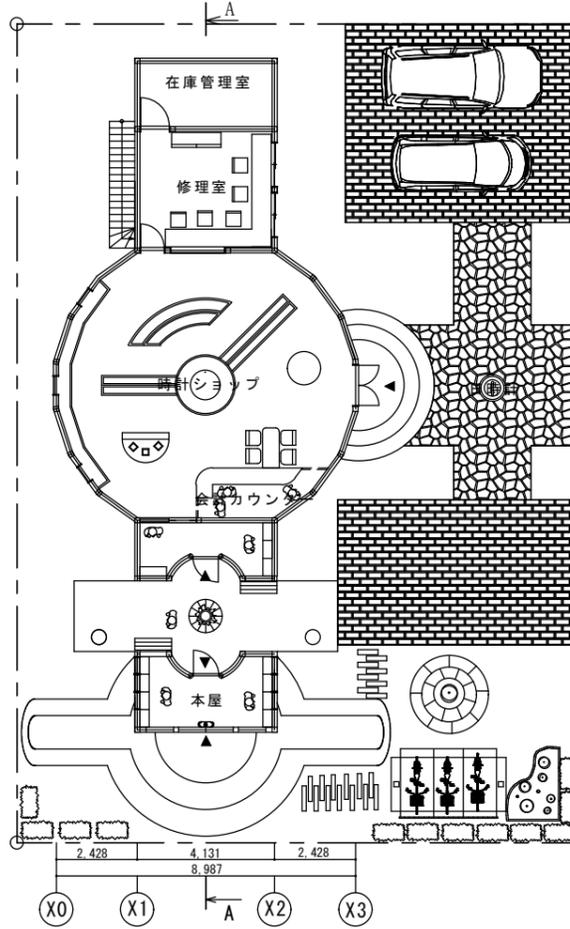
## 家族構成



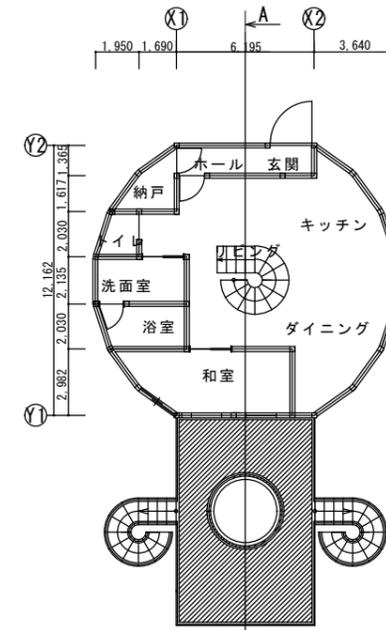
父(40)細かい作業が得意時計ショップを営む母(39)本を読むことが好き小さな書店を営んでいる兄(17)本を読むことが好き妹(15)音楽が好き細かい作業が好き祖母(75)裁縫が趣味



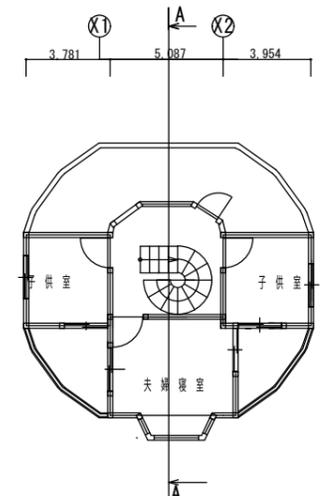
A-A断面図



配置図兼一階平面図 S=1/150



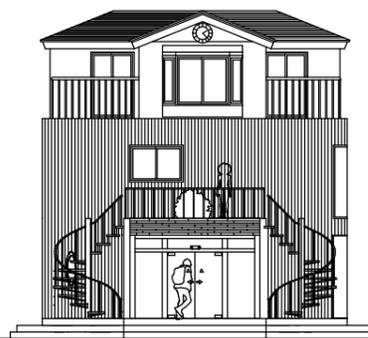
二階平面図 S=1/150



三階平面図 S=1/150



東側立面図 S=1/150



南側立面図 S=1/150



西側立面図 S=1/150



北側立面図 S=1/150

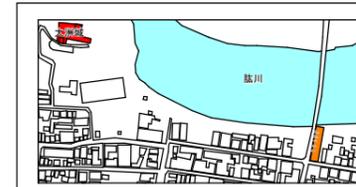


# 城下の川辺

## 設計主旨

この作品は、大洲市の歴史や文化を、大洲城より低い位置にある建設予定地の店舗2階部分からでも、大洲城や大洲城が周りの建設物に邪魔されないように、あえてGLから2階床高を高く設定し見えるようにした。

## 建設予定地

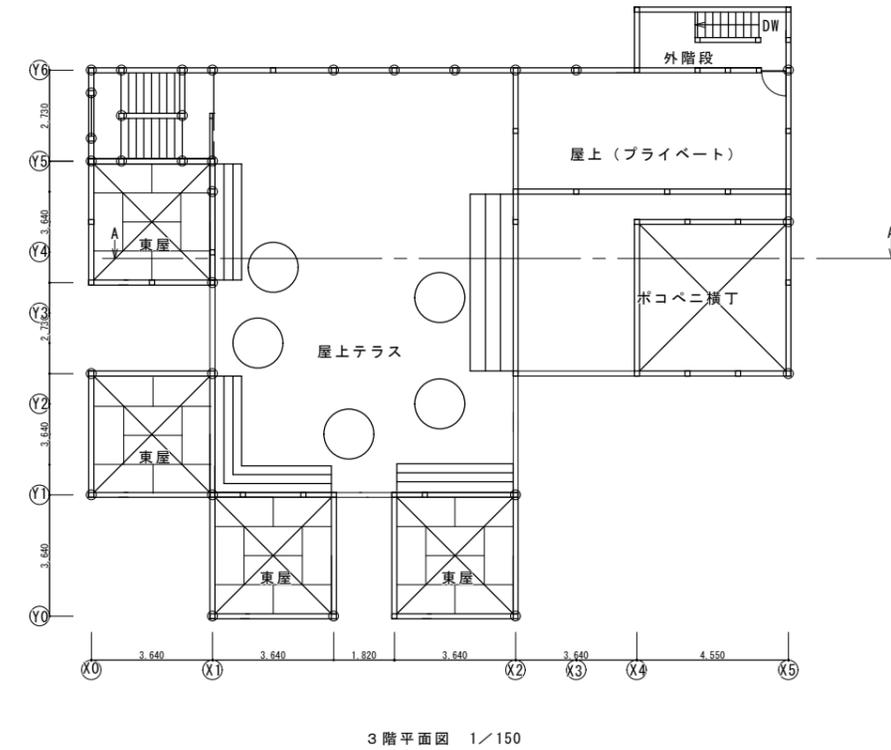
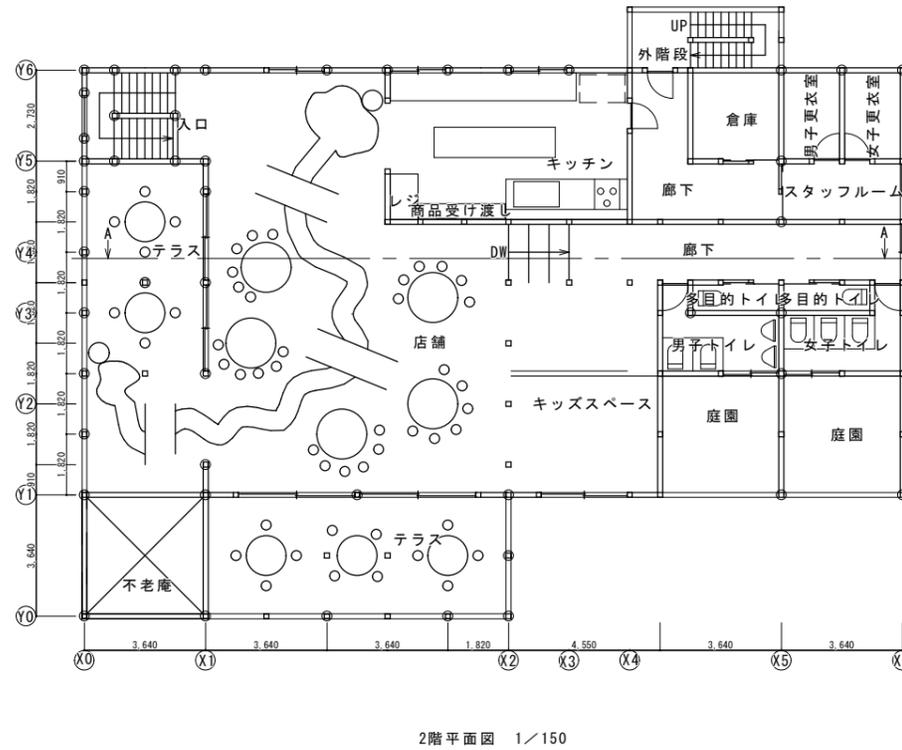
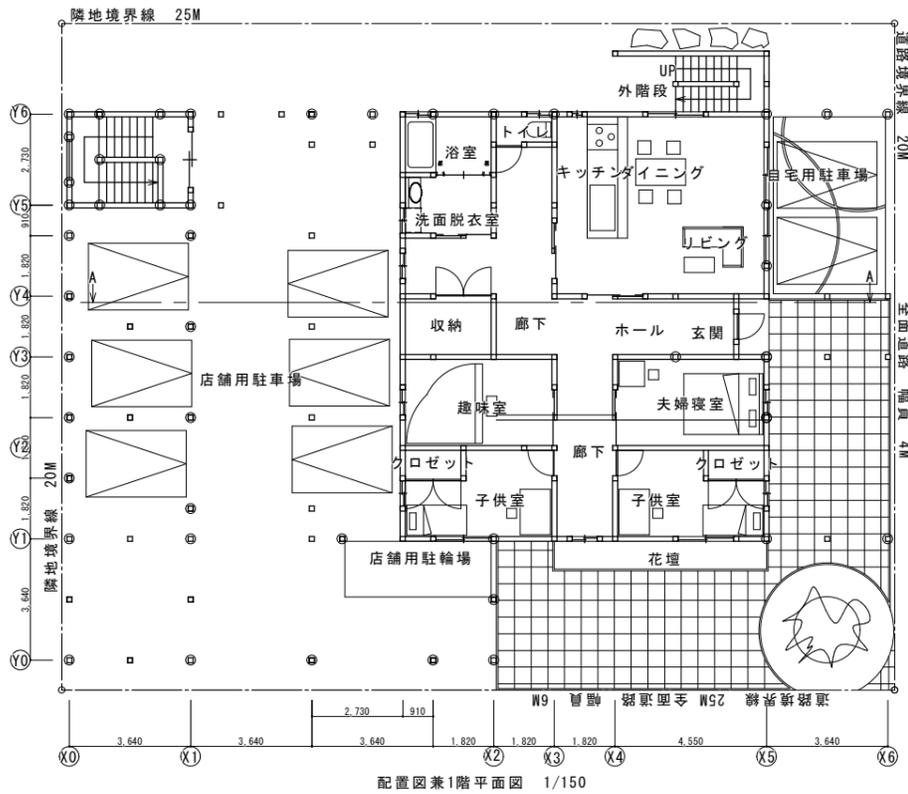


大洲市の歴史や文化を、大洲城より低い位置にある建設予定地の店舗2階部分からでも、大洲城や大洲城が周りの建設物に邪魔されないように、あえてGLから2階床高を高く設定し見えるようにした。

## 家族構成

父 (45歳) 趣味 釣り  
 母 (40歳) 水泳  
 長男 (17歳) サッカー  
 長女 (14歳) ピアノ

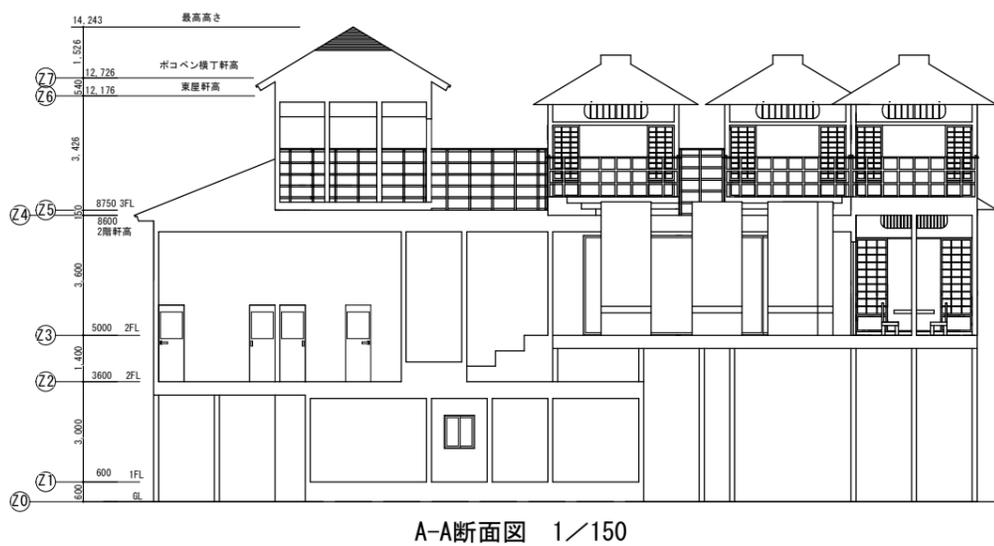
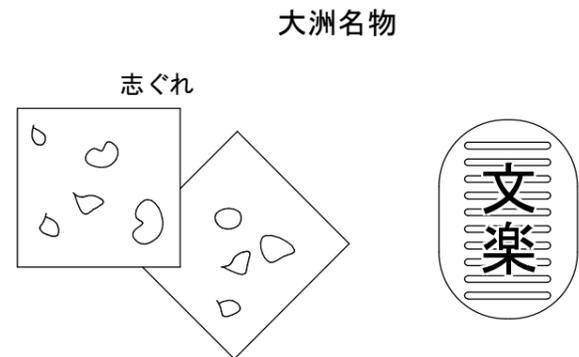
— 大洲城と大洲城が見える憩い処 —



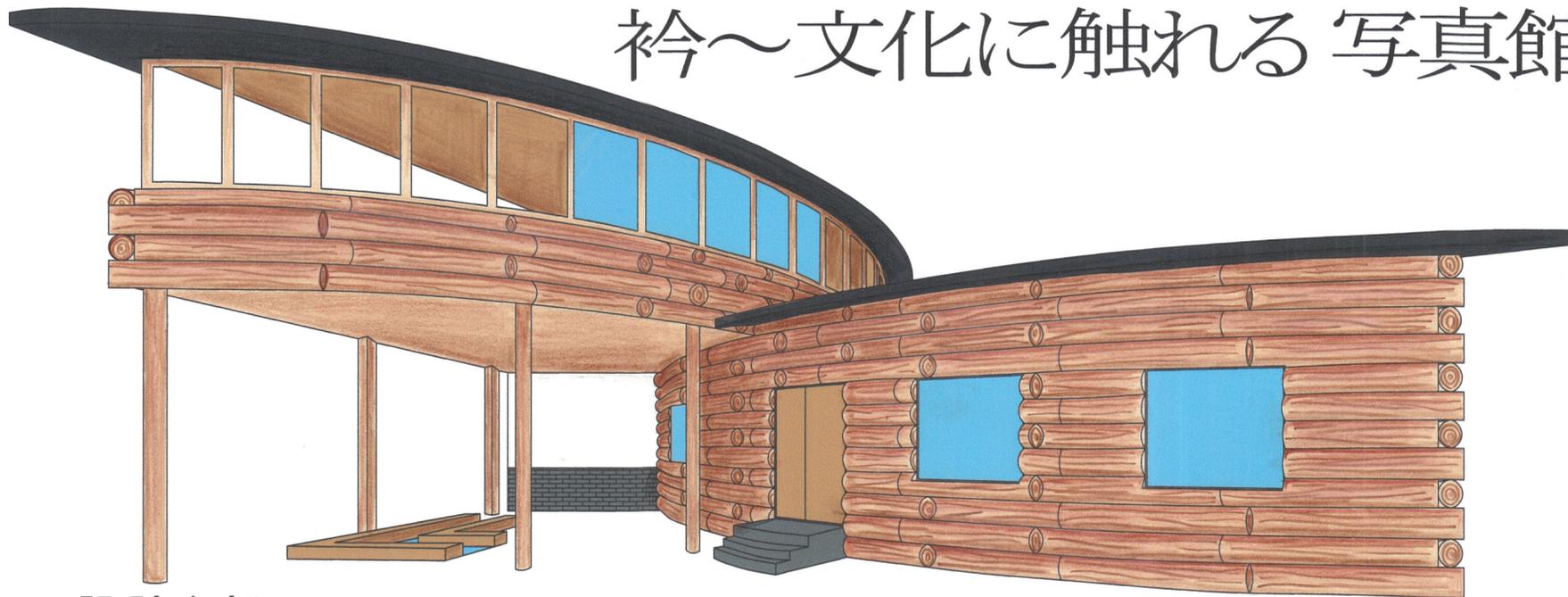
大洲城より低い位置にある建設予定地の店舗2階部分からでも大洲城や大洲城が周りの建設物に邪魔されないようにあえてGLから2階床高を高く設定し見えるようにした。



東屋  
 大洲にある臥龍山荘をモチーフにして近くの大洲川と、大洲城とマッチするようにテラスに付け一つの空間として憩いの場とした。

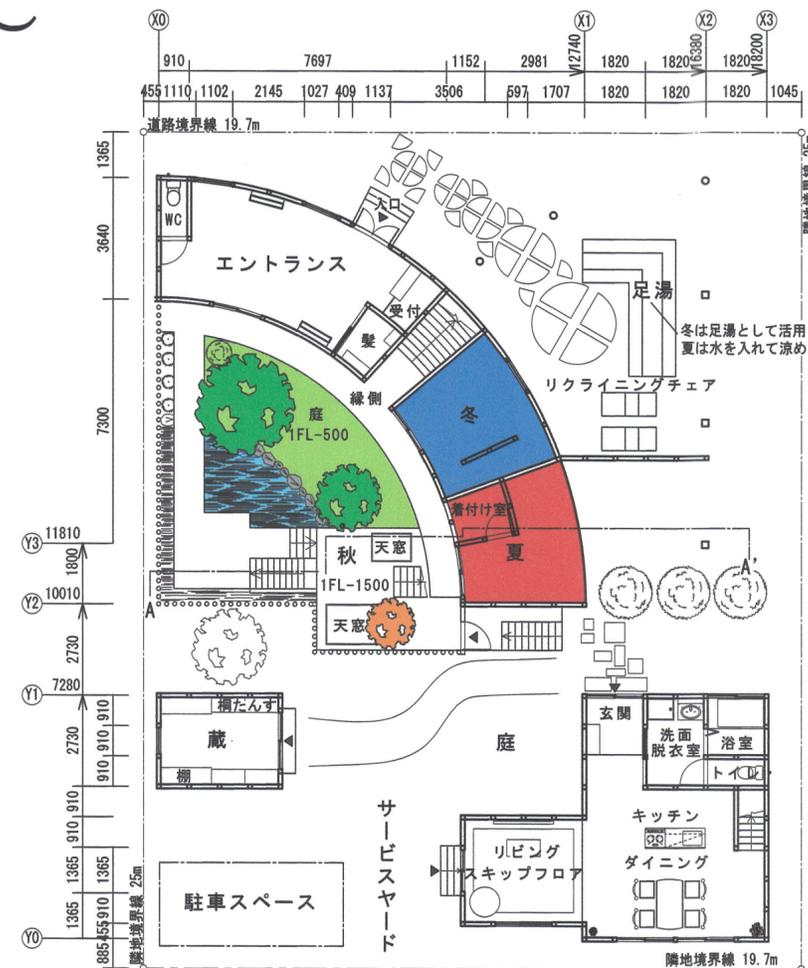
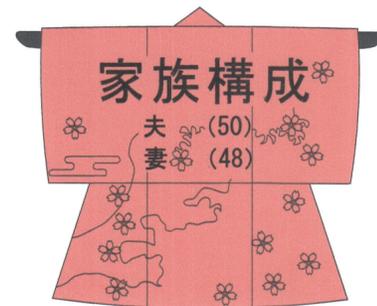


# 衿～文化に触れる写真館～

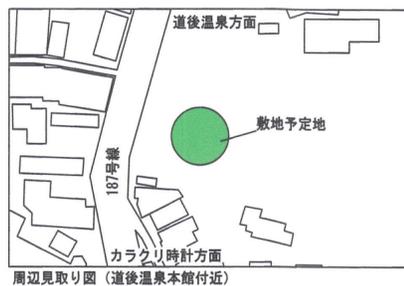
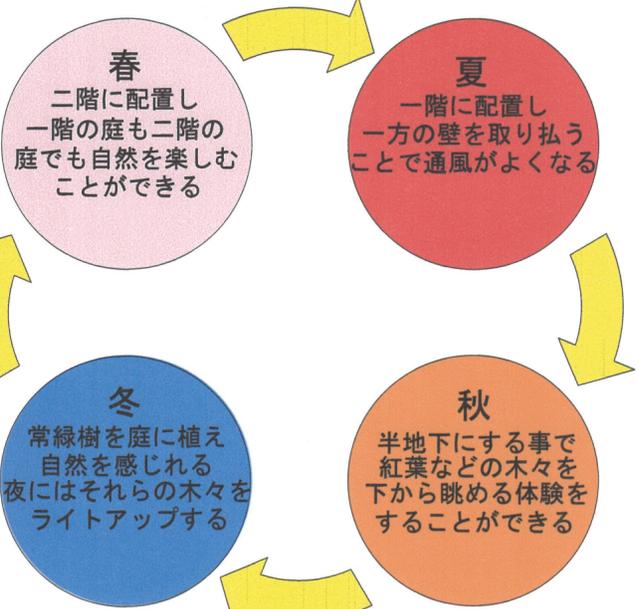


## 設計主旨

今回私が設計したのは、着物を主題とした写真館です。撮影だけでなく、着物のレンタルや販売も行っています。住宅を別館にすることで生活と商いを緩やかに隔てました。四季折々の情緒を感じられるように室内庭園を設け、特に秋の部屋を半地下にする事で紅葉を見上げられる体験的な空間を造りました。内観だけでなく外観にもこだわり、『和』を題材としているので店舗の形を扇形にしました。それに加えて、一階と二階が重なり上空から見ると着物の「衿」に見えるように設計しました。

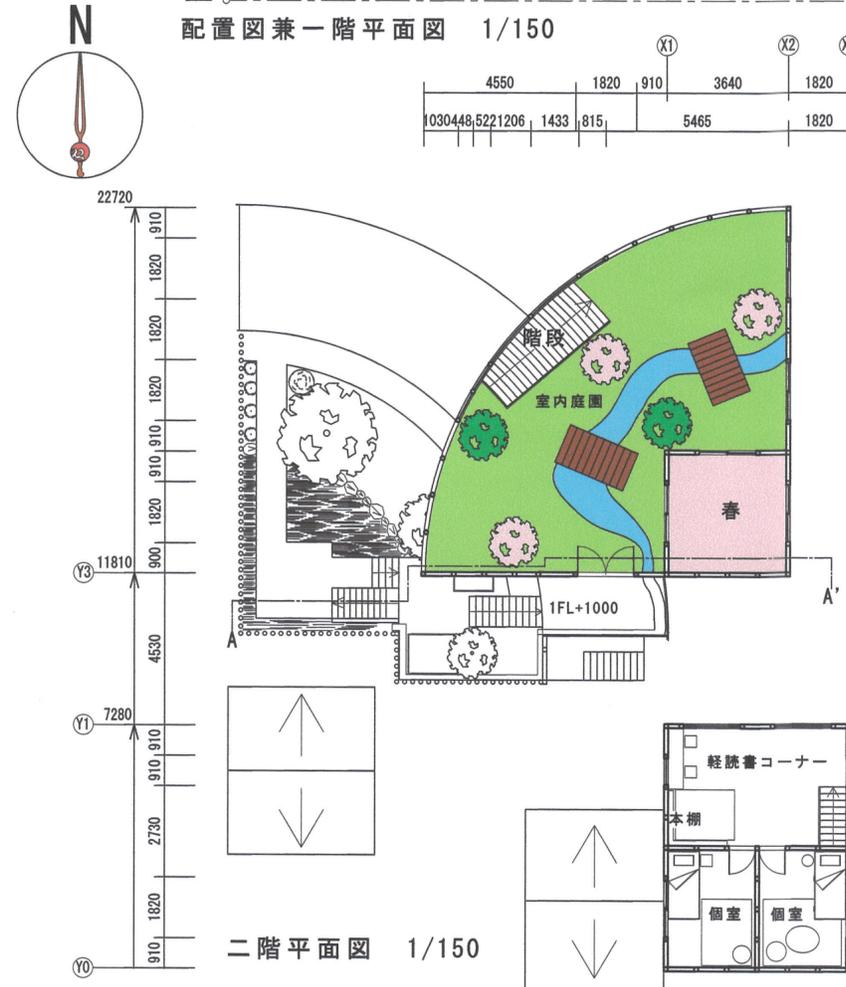
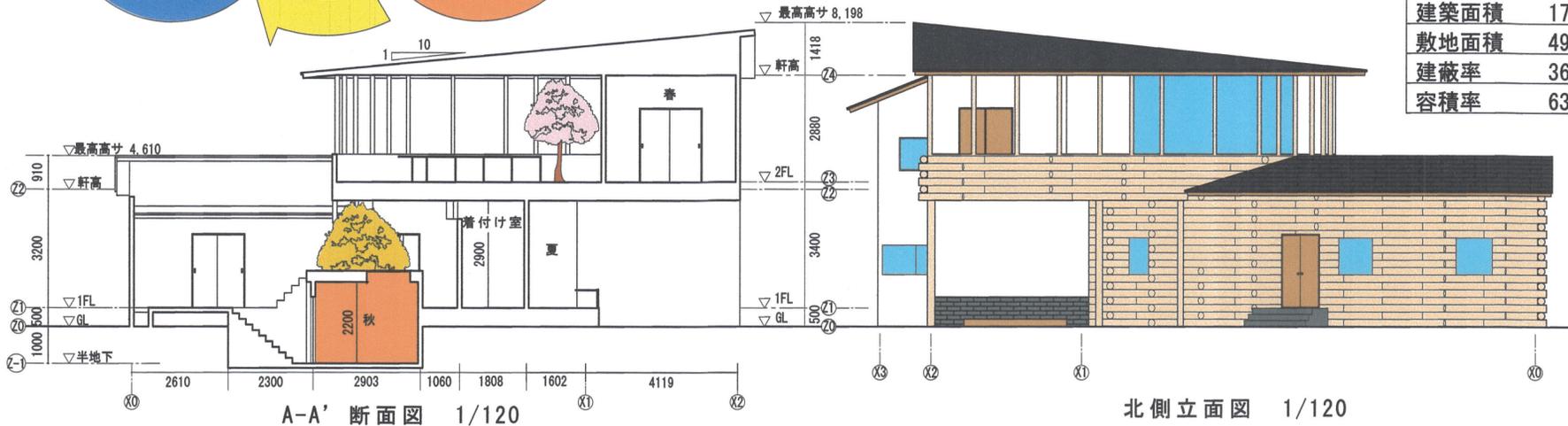


配置図兼一階平面図 1/150



## 面積表

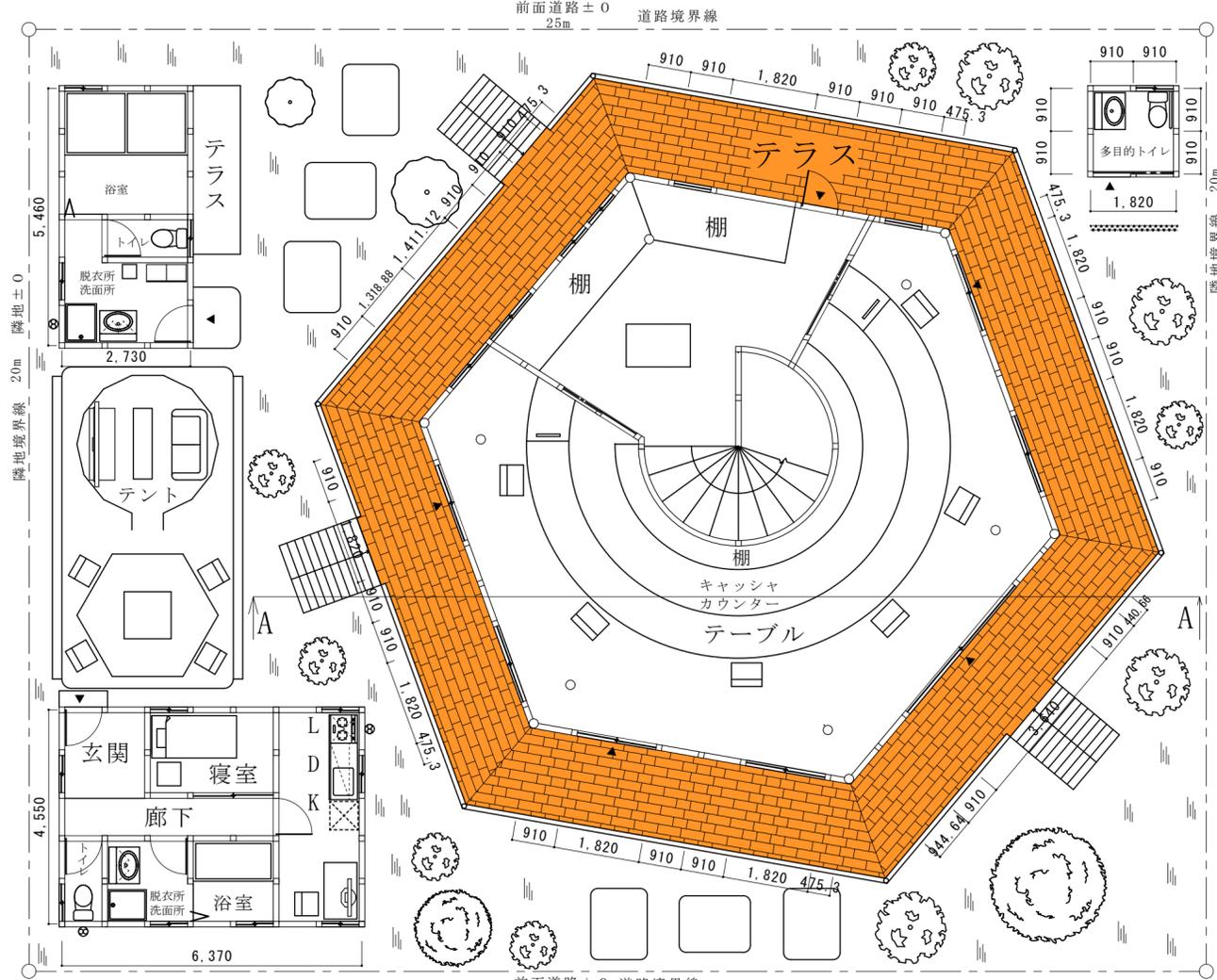
一階床面積	176㎡
二階床面積	133㎡
延べ床面積	309㎡
建築面積	176㎡
敷地面積	492㎡
建蔽率	36%
容積率	63%



二階平面図 1/150

# 自然体験

## ～笑い声が響くひととき～



### 設計主旨

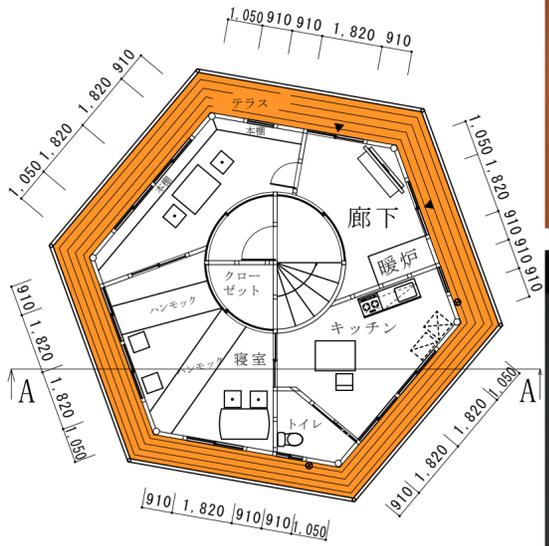
私が提案するのは、キャンプ用品店です。愛媛県は、自然が多い県です。しかし、自然を使った体験をすることが少ないので自然に触れているようなキャンプ用品店を提案します。キャンプ用品店では、内観では、一階に店舗を置き半円を描いたテーブルを置きお客さんに接客しやすい空間を作りました。二階には、宿泊ができ、キャンプ用品を主に使っています。外観では、テラスを一階床高さ、二階のテラスに設計し家の周りを囲むことで走り回れて解放感がたり道路側からみても迫力が出るように作りました。愛媛県民は、仕事熱心なところがあるので自然の癒しで心と体を癒してほしいです。

#### 面積表

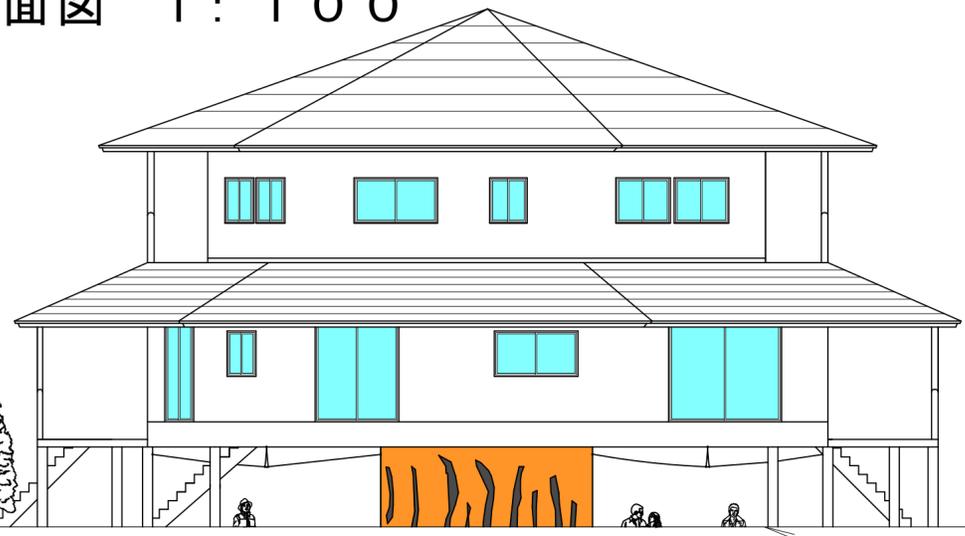
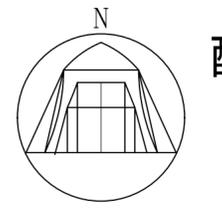
敷地面積	500㎡
建築面積	165.63㎡
一階床面積	165.63㎡
二階床面積	36.02㎡
延べ面積	201.65㎡
建ぺい率	33.13%
容積率	40.33%



設計予定地  
今治市別名周辺

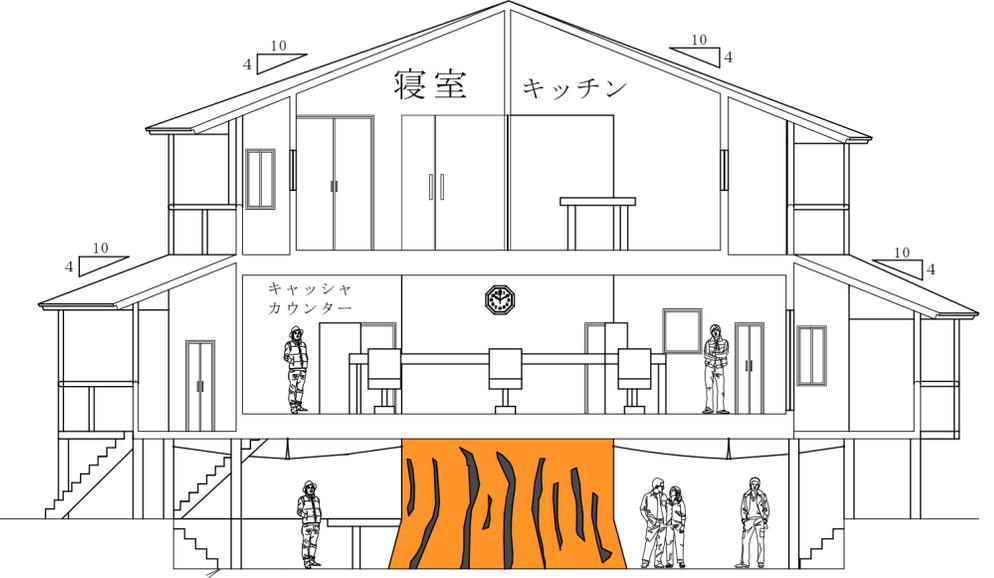


### 配置図兼一階平面図 1:100



最高高さ 10,363.32

軒高	1,888.32
2FL	5,375
1FL	2,100
基礎	1,600
GL	1,000
半地下	1,000



半地下をすることで道路からの視線は人しか見えず何をしているかわからないようにし、店舗に視線が引き付けられ店舗に入ってしまうような設計にしました。

8,633.85  
11,022.82  
A-A断面図 1:100

# みきゃんART

～自分だけのポーリングみきゃん～



〇 平面図・配置図



〇 設計主旨

愛媛県のイメージキャラクターである「みきゃん」に絵具を垂らすことで、幅広い世代の人に模様・面白さや色を楽しんでもらうことを目的としたお店である。みきゃんのかかわきを皆に知ってもらい、思い出やお土産の一つとして買ってもらいたいと思った。絵具を垂らすので、決まった模様や色になるのではなく、混ぜり方や色の種類で世界に一つだけの「みきゃん」を作ることができる。予想ができない模様や色の広がり方を楽しんでもらいたい。同じものが2度とできないという所も一つの魅力である。

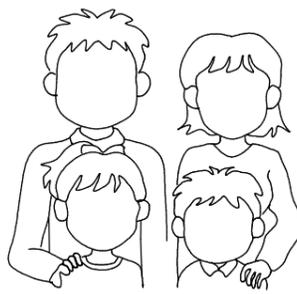
〇 ポーリングアートとは？

流動性のある絵の具を使って筆を使わず、色の混ぜりあいや重なりによる模様を楽しむアート技法のこと。

〇 体験について

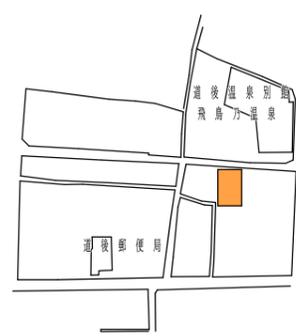
1. ご来店 みきゃんアートを見る。
2. 製作 みきゃんの種類・形を選んで混ぜる絵具の色を決める。
3. 製作（乾燥後） 乾燥後デコレーションをする。（ラメやビーズをつける）
4. 輸送 家に作品をおくる。

〇 家族構成



父（35歳）会社員  
母（37歳）オーナー  
娘（13歳）中学生  
息子（10歳）小学生

〇 建設予定地

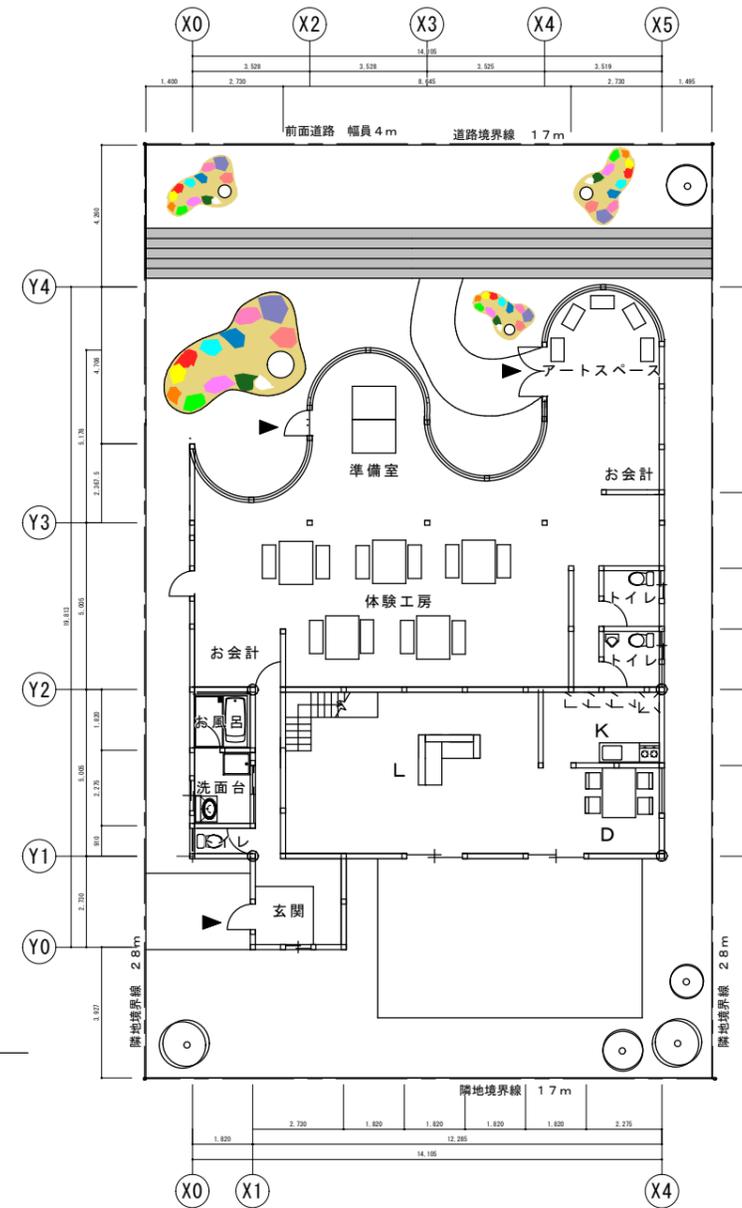


建設予定地は道後湯之町。  
目の前には飛鳥乃湯がある。

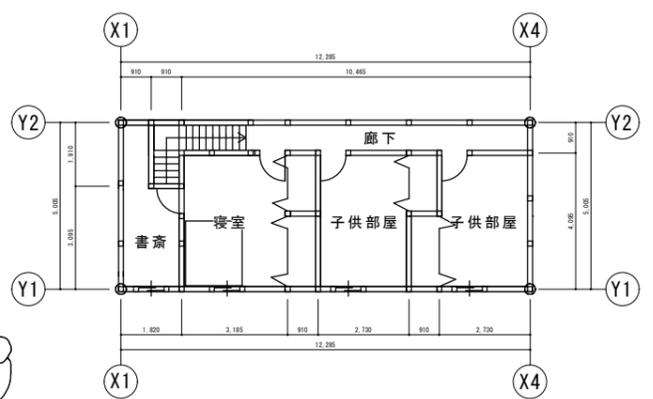


ベアアート

〇 完成予想図



配置図兼1階平面図 1/150

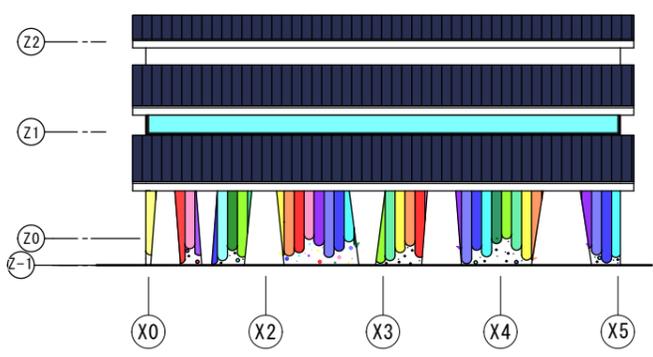


2階平面図 1/150

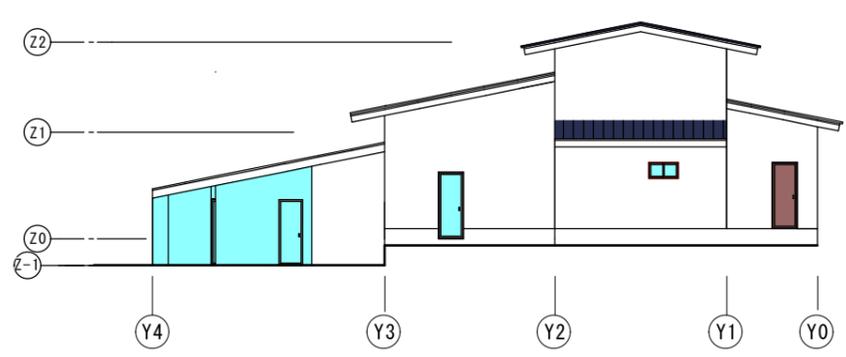


みきゃんアートを見てそのまま作品を作れるようになる配置にしてある。  
お客さんが流れるように配置。  
作品を制作しない人でも入りやすいようにアートスペースを手前にしてある。

〇 立面図



北立面図 1/150



西立面図 1/150



# Dans la Foret

～緑に囲まれたパン屋さん～



## ○設計主旨

私は、「パンづくりの体験」と「建築を通じた環境への配慮」を融合させたパン屋を設計した。単なるパン屋を建てるのではなく、自然に囲まれた環境の中で、パンづくりの体験を通じて、訪れる人々の心を癒す場所を創出したい。このプロジェクトでは、自然環境を活かしたデザインを追求し、建物と周囲の環境が調和するように設計した。また、パンづくりの体験を通じて、訪れる人々の心を癒す場所を創出したい。このプロジェクトでは、自然環境を活かしたデザインを追求し、建物と周囲の環境が調和するように設計した。

## ○建設場所

建設予定地は松山市の北条地区。小高い丘の上で、周囲は自然に囲まれ、山に遮られることなくひらけた場所で海も見える。



## ○家族構成

父（40歳）パン職人  
母（40歳）店員  
子供（10歳）小学四年生



## ○立面図

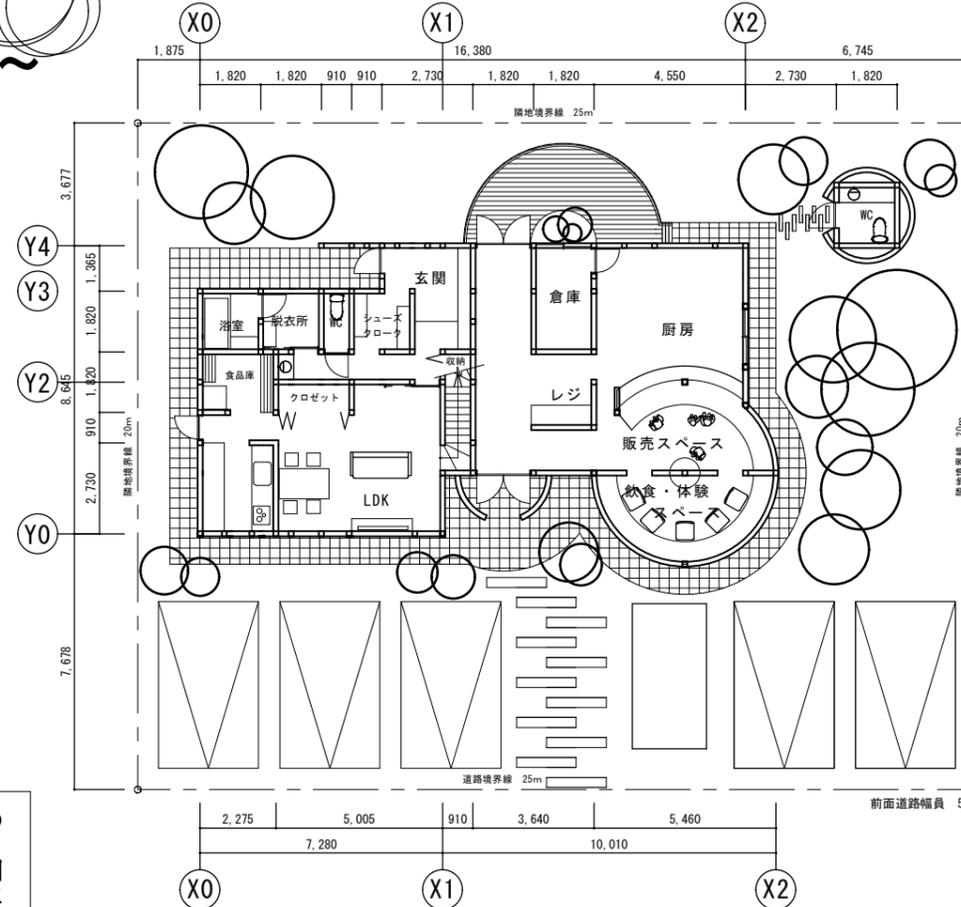


南立面図 1/150

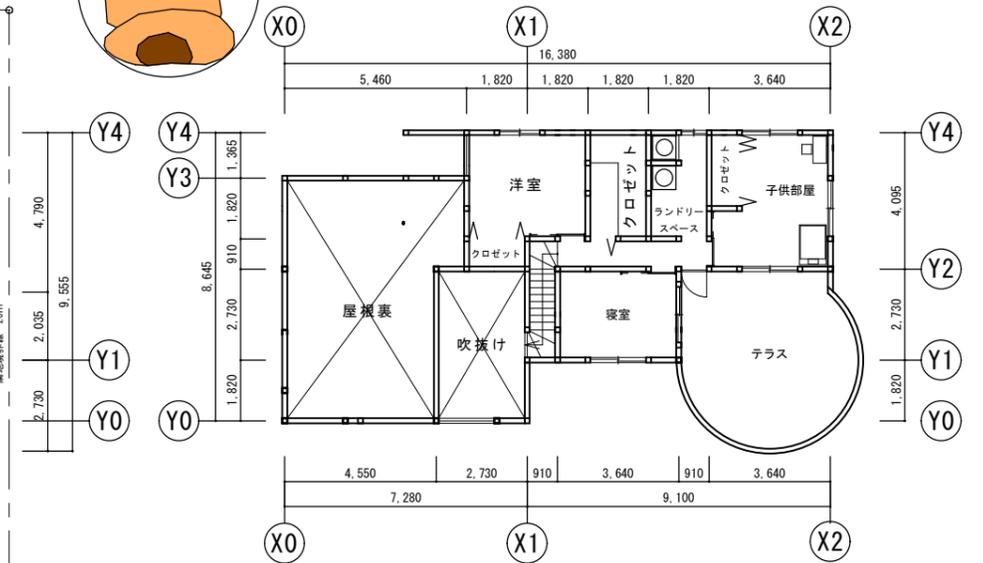
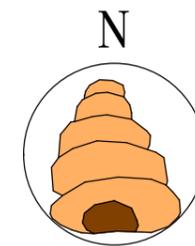


北立面図 1/150

## ○配置図・平面図



配置図兼1階平面図 1/150



2階平面図 1/150

## ○Dans la Foretでの過ごし方

### ●買う

季節ごとに異なる店主こだわりのパンが丸太の切り株で覆われたカウンターに並んでいる

### ●食べる

お店で買った焼き立てのパンをウッドデッキで瀬戸内海を眺めながら食べることができる。

### ●つくる

この「Dans la Foret」では月に数回、パンづくり体験会が開かれる。ここでは、自分だけの季節限定パンをつくる体験ができる

## ○建物のこだわり

### ●緑化

コンセプトの「森の中」に近づくために建物全体を緑化した。これにより、環境問題の抑制にもつながる

### ●動線

お店に入って右へと進むとパンを買って屋外のウッドデッキへと自然に流れる動線になっている

### ●北欧風

北欧から着想を得て、自然と調和するデザインにした。外観は落ち着いた色合いを採用した。

## ○建物イメージ



# 手すき和紙カフェ 『みつまたの里』

～ 触れ、感じ、記憶に残る文化の和～

## 設計主旨

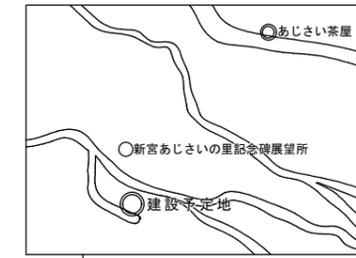
私は、四国中央市の文化を調和させる「手すき和紙カフェみつまたの里」を提案する。  
この建築には、ミツマタ、あじさい、手漉き和紙、新宮茶をデザインした。  
建物はコの字型になっており、カフェ、手漉き和紙工房、母屋がある。また、その中庭には、和紙の原料であり、令和6年から市の花となった「ミツマタ」畑がある。どこに居てもミツマタを感じることができる。  
ミツマタとあじさい、和紙とお茶が交わり文化を調和させることで、未来につなぎたい。



A-A断面図 1/75

## 建設予定地

「みつまたの里」は、新宮の花の名所である「あじさいの里」の中にある



## 家族構成

父 和紙職人  
母 パティシエ  
娘 趣味：お菓子作り

## 和紙の原料

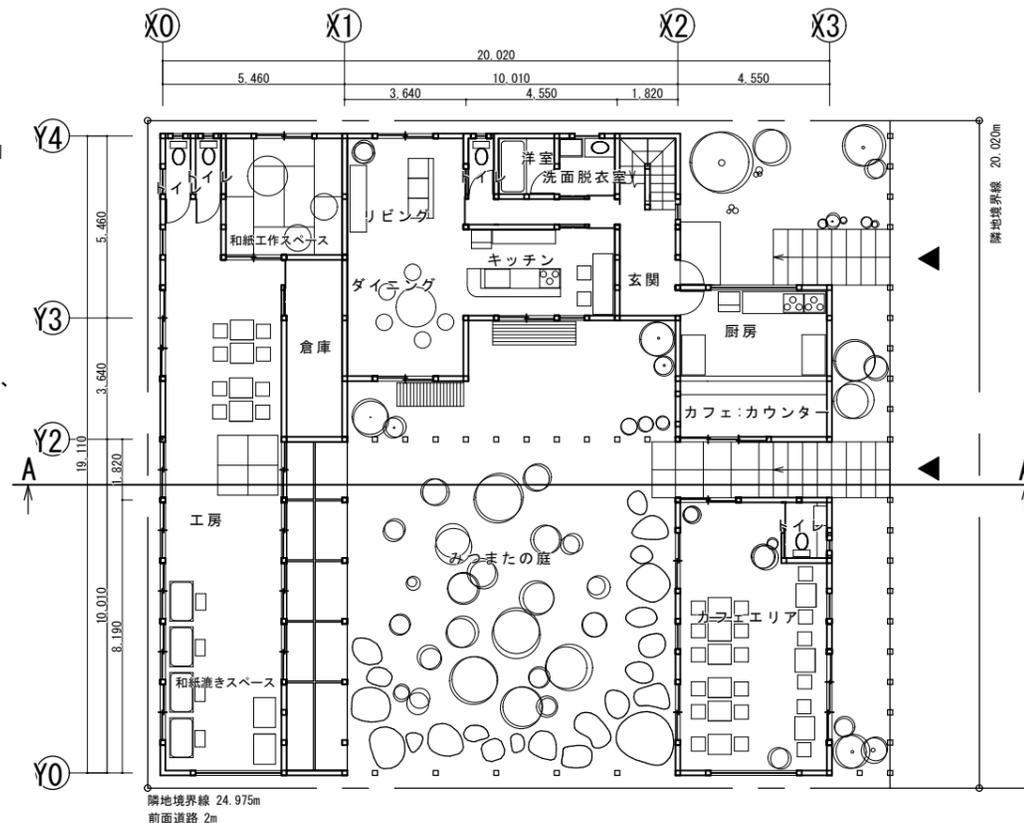
楮(こうぞ)みつまた雁皮(がんぴ)  
「みつまた」四国地方では『みつまたやなぎ』『むすびき』産地によっていろいろな呼び方があった。



手漉き和紙の体験ができる工房。和紙を「見る」だけでなく「触れ、つくり、感じる」ことで紙文化を自分の記憶として持ち帰るための場所。



和紙工房ということが分かるデザインとして、障子をモチーフとする壁とした。また、風に弱いみつまたの花を守るため、花を囲うように壁を設けた。



配置図兼一階平面図 1/150

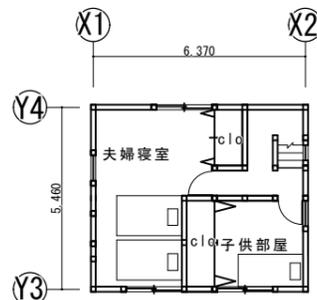


四国中央市の特産品である新宮抹茶を中心とした飲み物やスイーツを楽しむことができる。壁の内装材は和紙を使用している。

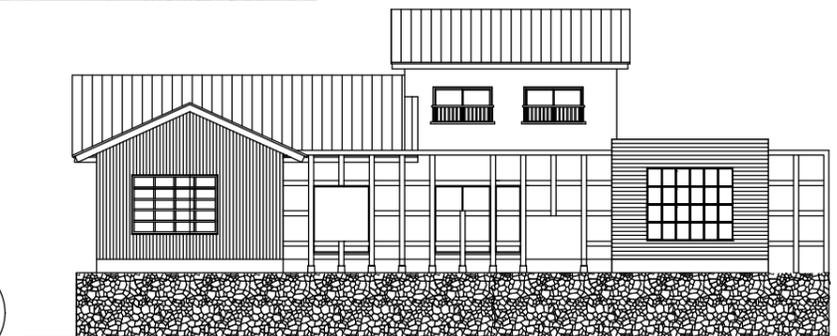
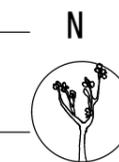


出入口はくぐり込むような形とし、内に入った瞬間に日常から切り替わる感覚を生み出している。中へ進むと、中庭のみつまたの景色が現れ、外から内への変化をもてなした。

手漉き和紙体験と新宮抹茶を楽しむカフェを組み合わせることで、四国中央市の紙文化とお茶文化が交わる場をつくった



二階平面図 1/150



南側立面図 1/150